

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
012122-1	北海道	留萌市	堤防へヤナギを植える。	ヤナギの根を張らす事により、堤防に強度を与え、河川を保護する。	「留萌川の変遷」（平成5年）添付資料2-1・P-210 「水害を考える」より
013676-1	北海道	奥尻町	地震がきた、高台へ逃げろ。	津波による被害から逃げるための教訓。	「言い伝え」としての口伝情報のみ
013676-2	北海道	奥尻町	避難路の確認を日常の合言葉に。	家族で災害時の避難路の確認、待ち合わせ場所の確認を常にしていくための教訓。	添付資料2-1を参照。
013676-3	北海道	奥尻町	地震が発生したらすぐにドアを開こう。	玄関が唯一の逃げ道になりがちなので、逃げ道の確保をしておくという教訓。	添付資料2-1を参照。
013676-4	北海道	奥尻町	避難は徒歩がいちばん。	車が立ち往生すると避難活動の妨げとなるという教訓。	添付資料2-1を参照。
013676-5	北海道	奥尻町	火の始末はそれぞれの義務。	地震後の火災はみんなが火の始末を心がけることとした教訓。	添付資料2-1を参照。
015580-1	北海道	上湧別町	アイヌ同士の大きな争いが起き、湧別アイヌは遠軽町展望岩の砦まで追い詰められていたが、夜半の暴風雨で湧別川が大洪水を起こし、勝利寸前だった十勝アイヌを全滅させた。	湧別川は雨が降ればたちまち氾濫する。屯田入植後も例年のように悩まされたが、その後の徹底した治水対策に活かされた。	アイヌ人の言い伝え 遠軽町史(昭和32年7月)p35～37（添付資料2-1） 写真（添付資料2-2）
016918-1	北海道	別海町	地震雲（飛行機が通過した後のような直線上の雲など）が空に出たらその何日後かに地震がくる。	地震発生への警戒を促す前兆現象を示すもの	情報のみ
016918-2	北海道	別海町	ネズミが家屋から逃げるとその家屋は火災に遭う。	火災への警戒を促す前兆現象を示すもの	情報のみ
024031-1	青森県	百石町	地震直後、海鳴りがしたら避難する	津波による被害から逃れるための教訓。昭和8年三陸大津波時に古老が触れ回っていた。	百石町誌（上巻1233頁）
024066-1	青森県	横浜町	地震がきたら山に避難しろ。	津波からの被害を防ぐ。	「言い伝え」としての口伝情報のみ
024465-1	青森県	階上町	海の災害としての伝説がある。「鶏にほろぼされた村」	これは防災に係る言い伝えとはいえないかもしれないが、津波等の海災害にかかる伝説と考えられる。	笛花久二男：「階上の昔話」 正部家種康：「歴史と伝説 はちのへ物語」
030007-1	岩手県		津波てんでんこ	津波による共倒れという悲劇を防ぎ、生存率を高めるための哀しい知恵	山下文男「津波 TSUNAMI」1997年、P169-182
030007-2	岩手県		地震があったら高台に逃げろ。	津波による被害から逃れるための教訓。	「言い伝え」としての口伝情報及び津波記念碑に残された警句。
030007-3	岩手県		低いところに住家を建てるな。	津波による被害を防ぐための教訓。	「言い伝え」としての口伝情報及び津波記念碑に残された警句。

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
030007-4	岩手県		地震の後、潮が引いたら高いところへ逃げろ。	引き波からくる津波による被害から逃れるための教訓。	「言い伝え」としての口伝情報及び津波記念碑に残された警句。
030007-5	岩手県		津波と聞いたら欲を捨てて逃げろ。	津波による被害から逃れるための教訓。	「言い伝え」としての口伝情報及び津波記念碑に残された警句。
030007-6	岩手県		緩慢な長い大揺れの地震があったら、少なくとも1時間は警戒せよ。	津波による被害から逃れるための教訓。	口伝情報 鈴木兼三（大槌尋常高等小学校長）「昭和八年三月三日大槌海嘯略誌」1933年
030007-7	岩手県		避難する時は、川沿いを逃げると危険。	津波による被害から逃れるための教訓。	口伝情報 鈴木兼三（大槌尋常高等小学校長）「昭和八年三月三日大槌海嘯略誌」1933年
030007-8	岩手県		外国地震でも津波は来る。	遠地津波に対する警戒も必要だという教訓。	「言い伝え」としての口伝情報及び津波記念碑に残された警句。
032093-1	岩手県	一関市	蛇、木に登れば水害		「萩荘史」（添付資料2-1）
032093-2	岩手県	一関市	朝雷は洪水のもと		「萩荘史」（添付資料2-1）
032093-3	岩手県	一関市	白ひげ水の伝説	大洪水への警告	「郷土誌 弥栄の里」291p（添付資料2-3）
032093-4	岩手県	一関市	水害常襲地の日常の心得		「中里村史」
032158-1	岩手県	奥州市	川霧が発生すると大水になる	科学的な根拠はないが、実際の経験則による。	
032158-2	岩手県	奥州市	束稲山（奥州市前沢区にある山）が曇ると雨がふる	科学的な根拠はないが、実際の経験則による。	
032158-3	岩手県	奥州市	雉が鳴く（騒ぐ）と地震が起きる	科学的な根拠はないが、実際の経験則による。雉は、地面に生息することが多く、地面の揺れを敏感に感じとる。	
032158-4	岩手県	奥州市	出水（でみず）（川が増水中）の時は、川の本流が馬っこ（馬）の背中みたいに盛り上がり、川の中をゴミが多く流れる	科学的な根拠はないが、実際の経験則による。増水なので、住民の避難勧告の参考となる。	
032158-5	岩手県	奥州市	雪の多い年は、カマキリが草の上のほうに巣を作る	科学的な根拠はないが、実際の経験則による。積雪の参考となる。	
032158-6	岩手県	奥州市	①一つの雷（ひとつのらい）は、川を渡るな（大雨になるからという意味） ②朝の雷には、川越するな。	カミナリが鳴ると、集中豪雨になる。	
032158-7	岩手県	奥州市	火災（火事）の時、猫は家の下にもぐる。	科学的な根拠はないが、実際の経験則による。火災の前兆を、直感的に予知するものか。？	
034851-1	岩手県	普代村	井戸水が引ければ、津波が来る	津波や地震予知の方法として、津波被害から逃れるため。	普代のことわざたとえ

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
034851-2	岩手県	普代村	地震が来たら、便所さ行け	詳細については不明であるが、地震による建物被害から逃れるため。	普代のことわざとえ
035025-1	岩手県	種市町	津波供養塔の刻銘 強震、鳴動があり井戸水や海水が不意に引くことがある場合は油断なく高所に避難すること。	津波による被害からのがれるための教訓	著者：種市町歴史民俗資料館（酒井久男） タイトル：津波－語りつぐツナミ－ 発行年：昭和63年3月 添付資料2－1 P57～P58
035025-2	岩手県	種市町	津波供養塔の刻銘 1、地震があつたら津波の用心 1、津波が来たら高い所へ 1、危ない所に家を建てるな	津波による被害からのがれるための教訓	著者：種市町歴史民俗資料館（酒井久男） タイトル：津波－語りつぐツナミ－ 発行年：昭和63年3月 添付資料2－1 P59
035025-3	岩手県	種市町	津波供養塔の刻銘 地震長きは津波と思へ 地震に気を締め津波に避難 不慮の津波に不断の注意	津波による被害からのがれるための教訓	著者：種市町歴史民俗資料館（酒井久男） タイトル：津波－語りつぐツナミ－ 発行年：昭和63年3月 添付資料2－1 P59
035033-1	岩手県	野田村	超大漁の翌年には、大津波がくる。	科学的な根拠はないが、実際の経験則による。 ・大正11年の大漁→関東大震災（大正12年） ・昭和7年の大漁→昭和三陸大津波（昭和8年） 未曾有の大漁。魚群が岸に押し寄せた。スルメイカが大量に波打ち際に押し上げられた。 ※関東大震災については、野田村より被災地が離れています。	野田民俗誌
041009-1	宮城県	仙台市	ゆれの長い地震があつたら津波の警戒	津波を伴う地震は規模が大きく、揺れている時間が長いものである。	1964年財団法人気象協会東北本部発行 「三陸沿岸津波読本」 仙台管区気象台編 P30（1）
041009-2	宮城県	仙台市	老人子供はまず退避	老人・子供・病人等は、津波襲来を知らされてから避難したのでは間に合わないことが多い。	1964年財団法人気象協会東北本部発行 「三陸沿岸津波読本」 仙台管区気象台編 P31（4）
041009-3	宮城県	仙台市	一度逃げたなら1～2時間はまで	退避してからしばらくたち津波が来ないからといって帰宅して、波にさらわれた例がある。	1964年財団法人気象協会東北本部発行 「三陸沿岸津波読本」 仙台管区気象台編 P32（7）
041009-4	宮城県	仙台市	船はすぐ沖に出る	津波が来るまで上陸の見込みのない船は、沖に向かって走るのが安全で得策。	1964年財団法人気象協会東北本部発行 「三陸沿岸津波読本」 仙台管区気象台編 P32（9）
041-1	宮城県		・地震がある時雉子が鳴けば津波が来ない。 ・地震後に雉子が鳴かないと津波が来る。 ・地震が2度目に大きく来れば津波が来る。	地震後の津波への警戒を促す前兆現象を示唆。	宮城県史20
041-2	宮城県		・蛙が高いところにのぼると洪水。 ・蜘蛛が巣を上にかければ洪水。	洪水への警戒を促す前兆現象を示唆。	宮城県史20
041-3	宮城県		2度大砲のような音がしたこと、海が光ったこと、津波襲来直前に平時よりも大幅に退潮したこと。	明治・昭和三陸津波の際の体験談	宮城県公文書館収蔵資料「三陸津波動向調査」

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
043613-1	宮城県	亙理町	地震の時は、竹やぶに逃げろ。	竹藪は倒れるものがなく、根が強く張っているので安全。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
043613-2	宮城県	亙理町	地震の時は、すぐ雨戸を開ける。	戸が開かなくなると、逃げられなくなると同時に、出口を確保するということ。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
045047-1	宮城県	美里町	強い地震があったときは竹やぶに居るのが、安全	地割れ等がないので、安全	昔からの言い伝え
045811-1	宮城県	女川町	「地震の時は、竹やぶに逃げろ」	竹藪は東西が密集にて土砂くずれが少なく、近くに倒れるものがなく安全。	口伝情報
045811-2	宮城県	女川町	「大地震が来たら、高台に逃げろ」	津波による被害から逃れるための教訓	口伝情報
046035-1	宮城県	本吉町	地震があつたら津波の用心	津波による被害から逃れるための教訓	「言い伝え」としての口伝情報及び石碑
046043-1	宮城県	気仙沼市	記念碑「地震があつたら津波の用心」	三陸沿岸は古来より津波の多いことを鑑み、昭和の大津波を契機に朝日新聞社募集義捐金の一部で罹災集落に記念碑を建設した。	
046060-1	宮城県	南三陸町	「地震があつたら津波の用心」	過去の津波被害の経験から地震があつたら津波が来る可能性が高いので、避難の準備をすること	昭和8年津波記念碑
046060-2	宮城県	南三陸町	「異常な引潮 津波の用心」	地震がなくても津波の前兆として異常な引潮があり、このような引潮があつた場合は、津波が来る可能性が高いので、避難の準備をすること	昭和35年津波記念碑
052019-1	秋田県	秋田市	夜寝るときに、囲炉裏の火床を灰で埋め、火箸を交叉しておくこと火伏せになる。	火事予防	秋田市史 第十六巻 民俗編 P739 平成15年3月31日発行
052019-2	秋田県	秋田市	鴉が低いところに巣を構える年は大風のある年。	天候の予測	秋田市史 第十六巻 民俗編 P740 平成15年3月31日発行
052019-3	秋田県	秋田市	鴉が高いところに巣を構える年は洪水のある年。	天候の予測	秋田市史 第十六巻 民俗編 P740 平成15年3月31日発行
052094-1	秋田県	鹿角市	地震がきたら、肥やしの上に乗れ。	地震被害防止策と思われる。（一説には肥やしの下は地盤が固くなるとか。）	口伝情報
052094-2	秋田県	鹿角市	井戸水が増えると大水が出る。	洪水の前兆現象を示唆	鹿角市史（第4巻）第8章 暮らしの中の民俗知識 第3節 予兆と俗信（p607～611）
052094-3	秋田県	鹿角市	冬に雨が降れば、次の日は吹雪となる。	風雪の前兆現象を示唆	鹿角市史（第4巻）第8章 暮らしの中の民俗知識 第3節 予兆と俗信（p607～611）
052094-4	秋田県	鹿角市	イワシ雲が出ると地震がおきる。	地震の前兆現象を示唆（因果関係は不明）	鹿角市史（第4巻）第8章 暮らしの中の民俗知識 第3節 予兆と俗信（p607～611）

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
052094-5	秋田県	鹿角市	鳥が川下を向いて泳げば大洪水がある。	洪水の前兆現象を示唆（因果関係は不明）	鹿角市史（第4巻）第8章 暮らしの中の民俗知識 第3節 予兆と俗信（p607～611）
063223-1	山形県	西川町	雪の降りぎわに関する諺「間沢一寸、本道寺二寸、大井沢四寸、志津八寸」あるいは「大井沢一尺、志津二尺」	同じ西川町であっても、山手に入るにしたがって積雪深が違うことを表し、山手へ行くときは積雪に十分注意しなければならないことを言っている。	それほど古くからの「言い伝え」ということではないが、平成6年度に発行された西川町史の防災に関する部分で、この内容が引用されている。
063649-1	山形県	真室川町	カマキリが高い位置に卵を産めば雪が多い。	カマキリは羽化時に水分を嫌うため、雪が多い年には高い位置に産卵するのではないかと、といわれている。	「言い伝え」としての口伝情報のみ
063649-2	山形県	真室川町	小国地区の御大日様の銀杏の葉が落ちた時に降った雪は根雪になる。		「言い伝え」としての口伝情報のみ
072036-1	福島県	郡山市	地震のとき、六つ八つ風に四つ日照り、五七の雨に九はやまい（くもり）（四つは10時、五つは8時、六つは6時、七つは4時、八つは2時、九つは12時）	地震の予兆として、各時刻にそれぞれの気象状況になっていることが多い。	「言い伝え」としての口伝情報であるが、郡山市内では、各地区で伝えられている。（『郡山のことばとくらし』平成2年3月31日、郡山市教育委員会発行）
072044-1	福島県	いわき市	古代から使っている道は浸水しない。	多くの災害の経験を経て残った道であり、淘汰された道であるため自然災害に強い。	郷土史家から
073636-1	福島県	舘岩村	蜂が低いところに巣を作るときは台風が多い。	大雨、台風に対する警戒。	「言い伝え」としての口伝情報のみ
073636-2	福島県	舘岩村	餓が大量に発生するときは大雪になる。	雪による災害について警戒	*一部の言い伝え。
074667-1	福島県	矢吹町	地震の時は、竹やぶに逃げろ。	竹藪は倒れるものがなく、根が強く張っているので安全	「言い伝え」としての口伝情報のみ
082023-1	茨城県	日立市	台風が房総沖を北東に進むときは北東の風で大雨	台風が日立の南を進むと北東の湿った気流が山地の東側に雨雲を発生させ多量の雨が降る。	「日立の気象30年報」
082023-2	茨城県	日立市	台風が日立の西側を通ったら南東の大風	台風の東から南東象限は、進行速度も加わり特に風の強い領域であり、日立には海上から強い風が吹き込む。	「日立の気象30年報」
082023-3	茨城県	日立市	冬の朝、積雲が海上で発達しているときは、日中西風が強くなる。	冬型の気圧配置で、上空の寒気が強いと北西から西の季節風が吹き出す。海上では暖かい海と冷たい風がぶつかって雲が発達する。	「日立の気象30年報」
082023-4	茨城県	日立市	冬、北西の季節風は沖合いで1.5倍から2倍の強さの風が吹く。	海上は陸地と較べると凹凸がないため、摩擦による減衰がなく、風が強くなる。漁船などには特に注意が必要。	「日立の気象30年報」

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
082023-5	茨城県	日立市	雷雲には真弓形と神峰形があり、真弓形のときは、久慈浜の方に雨が降り、神峰形のときは山陰に降る。小木津から川尻の方を回ってくる雲のときは雨がたくさん降る。		「語りつぐ日立の昔」
082171-1	茨城県	取手市	土手の下を見る	河川の増水時は、水位を警戒するため堤防の上部に監視が集中しがちだが、堤防下の地表の変化にも注意しろといった意。	「言い伝え」として口伝情報のみ
082171-2	茨城県	取手市	洪水（みず）が来たら、すぐ土手に登れ	地区の立地環境上、洪水から逃れられる台地状の場所がないため、洪水から逃れるためには堤防しかなく、洪水の際はすぐさま堤防に避難しろといった意。	「言い伝え」として口伝情報のみ
083-1	茨城県		朝鳩鳴けば川越すな	天候の変化	『茨城の民俗』第5号
083-2	茨城県		雉が鳴くと地震がおこる	地震予知	『茨城の民俗』第5号
083-3	茨城県		五七の雨に九はやまい六つ八つ風に四つ日照り	地震の時刻による天候を占う	『茨城の民俗』第5号
083-4	茨城県		地震が起こったら竹林に逃げこめ	地震の被害を避ける	『茨城の民俗』第8号
084425-1	茨城県	美浦村	地震の時は、竹やぶに逃げろ。	根が強く張っているので安全。	口伝
085642-1	茨城県	利根町	地震の時は、竹藪に逃げろ。	竹藪は、根が強く張っているため安全	「言い伝え」として口伝情報のみ
085642-2	茨城県	利根町	川の増水で、堤防から綺麗な（透きとおった）湧き水は、堤防は切れない。	綺麗な（透きとおった）湧き水は、浸透性のもので安全	「言い伝え」として口伝情報のみ
085642-3	茨城県	利根町	川の増水で、堤防から濁り水が湧き出たら、堤防が決壊しやすい。	濁り水が湧き出たら、堤防が削られ浸食しているため堤防決壊の危険性がある	「言い伝え」として口伝情報のみ
092011-1	栃木県	宇都宮市	安永2年の宇都宮大火の時、朝日観音の名を唱えたと火の勢いが遠のいた。	神仏の信仰の大切さ	宇都宮の民話（1983）
092011-2	栃木県	宇都宮市	安永2年の宇都宮大火の時、延命地藏の化身「小さき僧」により、地藏堂は類焼を免れた	神仏の信仰の大切さ	宇都宮の民話（1983）
092011-3	栃木県	宇都宮市	汗かき阿弥陀は吉凶異変の前兆として全身に汗をかく 災害関係：五十里洪水の前日（享保8年）、材木町の大火の前日（明治2年）、関東大震災の前日（大正12年）、宇都宮空襲の前日（昭和20年）	神仏の信仰の大切さ	宇都宮の民話（1983）
092011-4	栃木県	宇都宮市	享保8年の五十里洪水の一月前に、二荒山神社の神様の予言があり、宇都宮は大洪水から救われた	神仏の信仰の大切さ	宇都宮の民話（1983）
093-1	栃木県		地名「アカボッケ」は崩壊地に関わる地名である。	県内には「アカボッケ」に類する字名として「赤法花」「赤法華」「赤堀花」等がある。「アカ」は露出した赤土（関東ローム層）、「ボッケ」は崖を意味していることから、地名「アカボッケ」は崖崩れなどの崩壊地に関わる地名と考えられる。	塙静夫『とちぎの地名を探る』随想社 1996年 P10～11

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府 県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
093-10	栃木県		地名「蛇口」「蛇場」などは崩壊・浸食地形を意味する地名である。	「ジャクチ」の「ジャク」は土崩れ、崖という意であり、「ジャ」は崖などが崩れ落ちた所を意味する地名と考えられる。また、「蛇」（ジャ）は「崩」（ジャ）と同じ由来の地名である。	埜静夫『とちぎの地名を探る』随想社 1996年 P110～113
093-11	栃木県		地名「百々目木」「百目鬼」「轟」などは洪水を意味する地名である。	「百目鬼」「百々目木」「轟」の「ドド」「トド」は動詞トドメク、ドドメクの語幹で古くは擬音語であり、水音の轟くことを意味する。そこから、豪雨の際洪水に見舞われやすい場所の地名と考えられる。	埜静夫『とちぎの地名を探る』随想社 1996年 P136～138
093-12	栃木県		地名「流」「流レ」は浸食、崩壊を意味する地名である。	「流」「流レ」のつく地名は、河川や低地の近辺の場合は、洪水によって自然堤防や土手が決壊し、田畑などが浸食、崩壊した地形に由来するものと考えられる。	埜静夫『とちぎの地名を探る』随想社 1996年 P140～142
093-13	栃木県		地名「仏」は崩壊を意味する地名である。	「ホトケ」（仏）は、動詞ホドク（解）の連用形で、解け離れるの意から転じて崩れ落ちる崩壊を意味する。山間地などで「仏」のつく地名は、崩落をおこしやすい箇所の地名であると考えられる。	埜静夫『とちぎの地名を探る』随想社 1996年 P174～175
093-2	栃木県		地名「板」は河川などによる崩壊、浸食地形に由来する。	県内には「矢板」等「板」を含む地名がある。「イタ」は動詞イタムの語幹で物が損なわれるの意であり、川岸や山肌斜面など崩壊地に関わる地名と考えられる。	埜静夫『とちぎの地名を探る』随想社 1996年 P19～21
093-3	栃木県		地名「ウツノ」は崩壊地に関わる地名である。	地名「宇都宮」の「ウツ」は落ちるという意味がある。県内には主として山間地に「ウツノ」という地名が「宇津野」などとして散見される。同様に山間の崩壊地に関わる地名と考えられる。	埜静夫『とちぎの地名を探る』随想社 1996年 P28～30
093-4	栃木県		地名「カケ」は崩壊地に関わる地名である。	地名の「カケ」や「ガケ」は崖を意味し、典型的な崩落をおこす地形を示す地名である。例としては、「欠ノ上」「上欠町」など多数がある。	埜静夫『とちぎの地名を探る』随想社 1996年 P49～52
093-5	栃木県		「鬼怒川」「小貝川」は決壊しやすい河川を意味する。	「鬼怒川」は本来「毛野河」であり「クエ（崩）・ノ（野）」の転である。「小貝川」の「コカ」は「壊・倒」、「イ」は「井」から河川の意である。ともに氾濫しやすい河川に由来する名称である。	埜静夫『とちぎの地名を探る』随想社 1996年 P67～68

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
093-6	栃木県		地名「沓掛」は崩壊・浸食地形を意味する地名である。	「沓掛」は「クツ・カケ」という地名であり、「クツ」は崩れる、「カケ」は欠から崩壊地形の名称であり、河川等による崩壊、浸食をうけた土地を意味している。	埜静夫『とちぎの地名を探る』随想社 1996年 P75～77
093-7	栃木県		地名「栗」は崩壊・浸食地形を意味する地名である。	地名につく「栗」は動詞クルの連用形の名詞化で、抉る、転がるの意であり、主として山間地の「栗」のつく地名は崩壊地形の名称であると考えられる。	埜静夫『とちぎの地名を探る』随想社 1996年 P80～82
093-8	栃木県		地名「古賀志」は崩壊・浸食地形を意味する地名である。	宇都宮市古賀志山の「コガシ」は動詞コガスの連用形の名詞化で、草木などを引き抜くなどの意であり、崩壊地形を意味すると考えられる。古賀志山は山崩れ、崖崩れをひきおこす山に由来する名称であると考えられる。	埜静夫『とちぎの地名を探る』随想社 1996年 P89～90
093-9	栃木県		地名「猿内」は崩壊・浸食地形を意味する地名である。	河川沿いに散在する「サル」（猿）のついた地名は、サルが「去る」であることからある場所から離れる、手放す、取り除く等の意であり、転じて土手が決壊して押し流された浸食地を意味すると考えられる。	埜静夫『とちぎの地名を探る』随想社 1996年 P101～104
103039-1	群馬県	富士見村	近い山が遠く見えると雨	雨予兆	「富士見村誌」 気象に関する俗言 P1049
103039-2	群馬県	富士見村	荒山に雨雲が見えると雨	雨予兆 ※「荒山」は赤城山にある山の地名	「富士見村誌」 気象に関する俗言 P1049
103039-3	群馬県	富士見村	夕焼けが北へ廻って黒く消えれば明日は雨	雨予兆	「富士見村誌」 気象に関する俗言 P1049
103039-4	群馬県	富士見村	竹の子が背の低い年は嵐が来る。	台風予兆	「富士見村誌」 気象に関する俗言 P1049
103039-5	群馬県	富士見村	蜂が低い所に巣を作ると嵐がある。	台風予兆	「富士見村誌」 気象に関する俗言 P1049
103-1	群馬県		地震の時は、竹やぶに逃げろ。	竹やぶは根が縦横に張っているの、地割れをすることがない。	「言い伝え」としての口伝情報のみ
110001-1	埼玉県	埼玉県	夏至の朝霧がまくと大水がある（熊谷市佐谷田）		熊谷地方气象台：埼玉県下の天気俚諺（1987）
110001-10	埼玉県	埼玉県	蟻が木に登るのは大洪水の前兆（川越市）		熊谷地方气象台：埼玉県下の天気俚諺（1987）
110001-11	埼玉県	埼玉県	鳶が高い所に巣を作るのは大水の兆し（羽生市須影）		熊谷地方气象台：埼玉県下の天気俚諺（1987）
110001-12	埼玉県	埼玉県	蛇の木登りは大水の兆し（吉見町南吉見）		熊谷地方气象台：埼玉県下の天気俚諺（1987）

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
110001-13	埼玉県	埼玉県	堤防の上の方に蜂の巣の多いときは洪水（吉見町南吉見）		熊谷地方気象台：埼玉県下の天気俚諺（1987）
110001-14	埼玉県	埼玉県	蜂が梢に巣を作るのは洪水の兆し（川越市）		熊谷地方気象台：埼玉県下の天気俚諺（1987）
110001-15	埼玉県	埼玉県	川蟬の子が育つまでは水がでない（熊谷市久下）		熊谷地方気象台：埼玉県下の天気俚諺（1987）
110001-16	埼玉県	埼玉県	河原の蜂が巣を低く作るときは水は出ない（熊谷市久下）		熊谷地方気象台：埼玉県下の天気俚諺（1987）
110001-17	埼玉県	埼玉県	蜻蛉が家の中へ入ると大水がでる（熊谷市佐谷田）		熊谷地方気象台：埼玉県下の天気俚諺（1987）
110001-18	埼玉県	埼玉県	中仙道を蛾が多く西へ飛んで行くのは大水の兆し（熊谷市佐谷田）		熊谷地方気象台：埼玉県下の天気俚諺（1987）
110001-19	埼玉県	埼玉県	川柳の直立するときは洪水が出る（深谷）		熊谷地方気象台：埼玉県下の天気俚諺（1987）
110001-2	埼玉県	埼玉県	上げ雨が降ると大水になる（熊谷市久下）		熊谷地方気象台：埼玉県下の天気俚諺（1987）
110001-20	埼玉県	埼玉県	大水の出た夢を見ると火事が起こる。（荒川村）		埼玉県：荒川 人文Ⅲ p 486（1988）
110001-21	埼玉県	埼玉県	朝、雷があると大水が出る。（熊谷市）		埼玉県：荒川 人文Ⅲ p 487（1988）
110001-22	埼玉県	埼玉県	熊谷市久下神社のおみこしをお祭りにかついだ年には、必ず土手が切れ大水が出ると言われている。（熊谷市）		埼玉県：荒川 人文Ⅲ p 487（1988）
110001-23	埼玉県	埼玉県	3のつく年は大洪水があるという。（吉見町）	大規模な水害の起きた年（元号）の約半数に3がつく。統計的にいわれたことか（？）	埼玉県：荒川 人文Ⅲ p 488（1988）
110001-24	埼玉県	埼玉県	少しの雨でも荒川が洪水になるので、昔から蛙がおしっこをしても荒川があふれるといわれた。（鴻巣市）		埼玉県：荒川 人文Ⅲ p 488（1988）
110001-25	埼玉県	埼玉県	南風が吹くと台風や大洪水（八潮市、戸田市）		埼玉県：新編埼玉県史 民俗2 p 687（1986）
110001-26	埼玉県	埼玉県	蛙が家の近くに來たり、家の中に飛び込んだりすると大水や台風になる。	一般的な言い伝え	埼玉県：新編埼玉県史 民俗2 p 688（1986）
110001-27	埼玉県	埼玉県	亀が上にあがると大水が出る。（戸田市）	31 111-1とデータ重複。但、典拠はこちらの方が詳しい。	埼玉県：新編埼玉県史 民俗2 p 688（1986）
110001-28	埼玉県	埼玉県	なまずが地下を動き回ると地震が起こる。	一般的な言い伝え	埼玉県：新編埼玉県史 民俗2 p 688（1986）
110001-29	埼玉県	埼玉県	例年に比べて蜂の巣が多い年は台風が多く、巣の少ない年は大水が出る。		埼玉県：新編埼玉県史 民俗2 p 689（1986）
110001-3	埼玉県	埼玉県	朝雷は大水のもと（羽生市須影・熊谷市久下・熊谷市佐谷田・川越市）		熊谷地方気象台：埼玉県下の天気俚諺（1987）

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
110001-30	埼玉県	埼玉県	ア리가何方というほど群がり集まっていると大水が出る。（岡部町）		埼玉県：新編埼玉県史 民俗2 p689（1986）
110001-31	埼玉県	埼玉県	梨の花が多いのは大水の兆し。（志木市）		埼玉県：新編埼玉県史 民俗2 p689（1986）
110001-32	埼玉県	埼玉県	川柳が直立するときは大水の兆し。（志木市）		埼玉県：新編埼玉県史 民俗2 p689（1986）
110001-33	埼玉県	埼玉県	彗星は凶事の前兆。大水がでるなど。（戸田市）	一般的に変事・凶事の兆しとされる。	埼玉県：新編埼玉県史 民俗2 p690（1986）
110001-34	埼玉県	埼玉県	犬の遠吠えは火事の兆し。（戸田市、八潮市）	一般的に変事・凶事の兆しとされる。	埼玉県：新編埼玉県史 民俗2 p690（1986）
110001-35	埼玉県	埼玉県	家からねずみがいなくなると火事になる。	一般的な言い伝え	埼玉県：新編埼玉県史 民俗2 p691（1986）
110001-36	埼玉県	埼玉県	ねずみが神棚の注連縄をかじると火事になる。（大滝村）		埼玉県：新編埼玉県史 民俗2 p691（1986）
110001-37	埼玉県	埼玉県	井戸の水が増えると変事（地震など）が起こる。（戸田市）		埼玉県：新編埼玉県史 民俗2 p692（1986）
110001-4	埼玉県	埼玉県	寒雷様は大水のもと（川越市）		熊谷地方气象台：埼玉県下の天気俚諺（1987）
110001-5	埼玉県	埼玉県	荒川またぎの虹は大水のもと（吉見町南吉見・熊谷市久下・川越市）		熊谷地方气象台：埼玉県下の天気俚諺（1987）
110001-6	埼玉県	埼玉県	水吸（株虹）の出現は大水のもと（吉見町南吉見・川越市）		熊谷地方气象台：埼玉県下の天気俚諺（1987）
110001-7	埼玉県	埼玉県	朝虹が出ると大水がある（熊谷市久下）		熊谷地方气象台：埼玉県下の天気俚諺（1987）
110001-8	埼玉県	埼玉県	虹が富士をまたぐと大水がある（騎西町種足・久喜市・川越市）		熊谷地方气象台：埼玉県下の天気俚諺（1987）
110001-9	埼玉県	埼玉県	大橋をまたいで虹が出ると大水の兆し（熊谷市佐谷田）		熊谷地方气象台：埼玉県下の天気俚諺（1987）
111007-1	埼玉県	さいたま市	蜂が低いところに巣を作るときは、大風の前兆といわれている。	台風などの風害を避ける教訓	『ふるさとさいたまの知恵』（埼玉県老人大学ふるさとさいたまの知恵編集委員会/編 埼玉県県政情報資料室発行）159p 気象に関する知恵の項で紹介
111007-2	埼玉県	さいたま市	早魃に凶作なし	埼玉では昔から、早魃よりも水害が恐れられてきたことから生まれた言葉	『図説浦和のあゆみ』（浦和市総務部行政資料室/編 浦和市発行）228p
111-1	埼玉県		亀が上にあがると大水が出る。		新編埼玉県史（昭和61）
111-2	埼玉県		からすが巣を高い所に作ると大雨、低い所に作ると大風。		新編埼玉県史（昭和61）

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
111-3	埼玉県		秩父方面では、冬に山鳥がしきりに餌をあさっていると、大雪になる。		新編埼玉県史（昭和61）
111-4	埼玉県		蜂が低いところに巣を作ると風、高い所に作ると雨が多い。又、例年に比べて、巣が多い年は台風が多い、巣の少ない年は大水、軒の下に作ると日照り、日陰に作ると台風になる。		新編埼玉県史（昭和61）
111-5	埼玉県		梨の花が多いのは大水の兆し。		新編埼玉県史（昭和61）
113263-1	埼玉県	毛呂山町	雷が鳴ったら、「自分より高い火の見櫓やけやの木に行ってはいかない」	雷は高いものに落ちやすい。	毛呂山町『毛呂山民俗誌Vol.1』（平成2年）p28 毛呂山町立図書館蔵（添付資料2-1）
113263-2	埼玉県	毛呂山町	雷が鳴ったら、「豆まきの豆を食え」	「鬼は外」で追い出された鬼と、雲の上の雷様と結びつけ、豆を人が食べれば雷様も怖くなって雷をやめるだろうということ。	毛呂山町『毛呂山民俗誌Vol.1』（平成2年）p28 毛呂山町立図書館蔵（添付資料2-1）
113263-3	埼玉県	毛呂山町	雷が鳴った時、「へそをとられるよ。おりこうさんにしなさい」	子どもに言うことを聞いてもらうため。	毛呂山町『毛呂山民俗誌Vol.1』（平成2年）p27 毛呂山町立図書館蔵（添付資料2-1）
113263-4	埼玉県	毛呂山町	雷が鳴った時、「桑原 桑原」と唱える。	雷が桑原に落ちて桑株に刺さりケガをして以来桑原へは落ちないという説（p27）、桑原は本数が多くて被害が少ないという説（p27）、桑は霊木で鬼や魔物が寄りつかないという説（p28）など。	毛呂山町『毛呂山民俗誌Vol.1』（平成2年）p27、p28 毛呂山町立図書館蔵（添付資料2-1）
113263-5	埼玉県	毛呂山町	雷の時は、蚊帳に入り、線香を立てる。（p27、p28、p117、p118）	麻の蚊帳が良いとされ、線香は床の間に立てた。（p118）	毛呂山町『毛呂山民俗誌Vol.1』（平成2年）p27、p28、p117、p118 毛呂山町立図書館蔵（添付資料2-1）
113263-6	埼玉県	毛呂山町	地震のときは「竹やぶに入れ」	竹林は根が強いため、地盤が安定。	毛呂山町『毛呂山民俗誌Vol.1』（平成2年）p28 毛呂山町立図書館蔵（添付資料2-1）
113263-7	埼玉県	毛呂山町	地震のときは「まんぜえろく」と唱える。	詳細不明。一説では、「まんぜえ」＝「万歳（ばんざい）」、「ろく」＝「禄」（「俸禄」の「禄」。「報酬」「恩恵」の意）。従って「まんぜえろく」は、末永く神の恩恵を受けられますように、という祈願か？（同出典外）	毛呂山町『毛呂山民俗誌Vol.1』（平成2年）p28、p117 毛呂山町立図書館蔵（添付資料2-1）
113263-8	埼玉県	毛呂山町	立春から数えて二百十日目を厄日とし、その前日あたりから「オヒマチ」と呼ばれる嵐よけの祈願の儀式を行う習慣があった。	立春から数えて二百十日目は9月初旬で、台風の季節であるため、近所の人が注意を喚起し合い、地域で協力して警戒態勢をとる。	毛呂山町『毛呂山民俗誌Vol.1』（平成2年）p46 毛呂山町立図書館蔵（添付資料2-1）
114421-1	埼玉県	宮代町	地震の時は、竹やぶに逃げろ。	竹藪は根が張っているので安全。	「言い伝え」としての口伝情報のみ
120006-1	千葉県		土手が鳴くと土手が切れる。	水圧により土手が震動することを指す。	「体験談として」の言い伝え。

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
120006-2	千葉県		土手が決壊したら、下手に逃げろ。	堤防決壊は、上流側から起こるので、下手に逃げようということ。	「体験談として」の言い伝え。
120006-3	千葉県		地震の前には、キジなどの鳥が鳴く。	地震の予兆として。	「体験談として」の言い伝え。
120006-4	千葉県		地震の前には魚が跳ねる。（魚の種類は問わない）	地震の予兆として。	「体験談として」の言い伝え。
120006-5	千葉県		水塚には、米俵・みそ樽などの食料や生活用具を必ず保管しておくこと。	洪水避難場所として、いつでも備えをしっかりとしておくということ。	「体験談として」の言い伝え。
120006-1	千葉県		水害時には杖のような棒で前方をつきながら歩く。	水があつて穴が開いているかどうかわからないから。	
120006-2	千葉県	山武市	地震の時は、竹やぶに逃げろ。	竹藪は倒れるものがなく、根が強く張っているので安全	「言い伝え」としての口伝情報のみ
120006-3	千葉県	山武市	地震がきたら、高台に逃げろ。	津波による被害から逃れるための教訓	同上
131075-1	東京都	墨田区	地震のときは表戸を開ける	木造家屋は揺れが激しいと家屋が歪み、戸の開閉が出来なくなることの教訓	墨田区関東大震災体験記録集（昭和52年）
131075-2	東京都	墨田区	二階建の家は、一階より二階が安全	地震で一階がつぶれるケースが多いことの教訓	墨田区関東大震災体験記録集（昭和52年）
131075-3	東京都	墨田区	大地震のときの持ち出し品は食物ぐらいで最小限度に	地震に伴う大火災により家財道具に火がつくことへの教訓	墨田区関東大震災体験記録集（昭和52年）
132012-1	東京都	八王子市	三の酉まである年は火事が多い。	火事予防	言い伝え
132012-2	東京都	八王子市	蜂が例年より巣を低く作る年は台風が多い。足つ吊し（足長蜂）が枝より根元近くに巣を作った時は、特に台風災害に警戒が必要。	台風予防	言い伝え
132080-1	東京都	調布市	戦前は二百十日または二百二十日という厄日には必ずといっていいくらいに台風が来た。台風に依る野川の出水で稲が穂だけ出してあとは水びたしになったことも何度もある。	秋口の台風についての注意	神代農業の戦後史：大林茂一〔著〕[1982]
132080-2	東京都	調布市	「逃げ出したネズミ」昔の年寄りもよく言っていた。火事のある前にはネズミがいなくなるって。何かを感じるのか奇態だ。	動物の危険察知能力について述べたもの。	子どものための調布のむかしばなし：中島恵子採話 調布市立図書館編集 2005.10
132080-3	東京都	調布市	「天気予知 風 台風」ハチが高いところに巣をつくとその年は風が吹かない。低い時は風が多い。	動物の気象等の予想能力について述べたもの。	子どものための調布のむかしばなし：中島恵子採話 調布市立図書館編集 2005.10
133612-1	東京都	大島町	蜂の巣が低い場所にある年は、台風が多い。	夏から秋にかけて巣をつくる蜂が、低い場所に営巣することは激しい風雨から逃れるための現象と示唆。	「言い伝え」として口伝情報のみ
141305-1	神奈川県	川崎市	不知火の松(川崎区)	海が荒れる夜に、沖の漁師に岸の位置を松にたいまつを灯して教えた	萩坂昇(1986) かわさきのむかし話 むさしの児童文化の会
141305-10	神奈川県	川崎市	諏訪社の御神体である大蛇が矢上川の洪水から社を守った	諏訪者社の御神体(中原区木月)	『木月村覚書』川崎の民話調査団編集 (1994)川崎物語集巻六、川崎市市民ミュージアム

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
141305-11	神奈川県	川崎市	流された神輿(中原区木月)	矢上川洪水流は鶴見川に流入	『木月村覚書』川崎の民話調査団編集(1994)川崎物語集巻六、川崎市市民ミュージアム
141305-12	神奈川県	川崎市	日本屋(川崎区大師)；明治の中頃、海苔に携わる人が海に出て遭難し、房総に流れ着いた	東京湾流の存在	『稻荷新田考』川崎の民話調査団編集(1994)川崎物語集巻二、川崎市市民ミュージアム
141305-2	神奈川県	川崎市	寺を守った亀(川崎区)	砂子の宗三寺縁起。洪水から寺を守った亀の話。	萩坂昇(1986)かわさきのむかし話 むさしの児童文化の会
141305-3	神奈川県	川崎市	お千代の池(高津区久地)	昭和6年以前の久地の堤防は低く、洪水のたびに至る所に池ができた。	石塚兎之一「お千代の池」(『民俗』15号、昭和31年)川崎の民話調査団編集(1994)川崎物語集、川崎市市民ミュージアム
141305-4	神奈川県	川崎市	キンコ池(川崎区中瀬)	破堤によりできた池にまつわる話	『大師河原誌』川崎の民話調査団編集(1994)川崎物語集巻四、川崎市市民ミュージアム
141305-5	神奈川県	川崎市	横土提の人柱(高津区久地)	元禄年間、伊奈半十郎によるという横土提改修工事に冠する話	『川崎風土記』川崎の民話調査団編集(1994)川崎物語集巻四、川崎市市民ミュージアム
141305-6	神奈川県	川崎市	土橋(宮前区土橋)	土砂崩壊に関係する土橋のいわれ	川崎の民話調査団編集(1994)川崎物語集巻四、川崎市市民ミュージアム
141305-7	神奈川県	川崎市	洪水で流される人を救った綱下げ松(高津区下作延)	文政5年6月半ば、多摩川大洪水に関する話	小林綱夫「下松のゆらい」(『川崎市ちゅうおう農協』119号、昭和57年3月)川崎の民話調査団編集(1994)川崎物語集巻三、川崎市市民ミュージアム
141305-8	神奈川県	川崎市	江戸の大火を防いだ大蓮寺の大日如来(高津区久本)	大蓮寺の大日如来が江戸の大火を防いだという話	『郷土のお話』上之巻第五話、川崎の民話調査団編集(1994)川崎物語集巻六、川崎市市民ミュージアム
141305-9	神奈川県	川崎市	多摩川の洪水で人が苦しんでいるのを見て、一人の女が身を投げた。	女躰神社(幸区幸町)縁起	『わたしたちの町「さいわい」』川崎の民話調査団編集(1994)川崎物語集巻六、川崎市市民ミュージアム
142034-1	神奈川県	平塚市	地震の時は、竹やぶに逃げたほうがよい		『平塚市民俗調査報告書』4 139・274頁
142034-2	神奈川県	平塚市	ねずみが騒ぐと地震が来る		『平塚市民俗調査報告書』2 252頁

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
142034-3	神奈川県	平塚市	東の方に虹が出ると大雨となって大洪水になる		『平塚市民俗調査報告書』4 137頁
142034-4	神奈川県	平塚市	流れ星が見えると大水が来る		『平塚市民俗調査報告書』4 271頁
142034-5	神奈川県	平塚市	カエルが小便をすると水害になる		『平塚市民俗調査報告書』4 272頁
142034-6	神奈川県	平塚市	なまずが動き出すと地震が起こる		『平塚市民俗調査報告書』4 272頁
142034-7	神奈川県	平塚市	地震のとき「マンダラッコ、マンダラッコ」と唱えるとよい。		『平塚市民俗調査報告書』6 269頁
142034-8	神奈川県	平塚市	地震の際に唱える言葉「まんぜー、まんぜー」		『大野誌』4 1042頁
142034-9	神奈川県	平塚市	地震・雷、その他恐ろしいことが発生したときに発せられる言葉「桑原、桑原」		『大野誌』4 1042頁
142140-1	神奈川県	伊勢原市	大山阿夫利神社の下社が見えなくなると雨が降る		言い伝え
142140-2	神奈川県	伊勢原市	大山の西、蓑毛・田原に雲があると翌日は雨		言い伝え
142140-3	神奈川県	伊勢原市	大山の東、日向・七沢に雲があると翌日は雨が上がる		言い伝え
142140-4	神奈川県	伊勢原市	蜂が高いところに巣をかけると台風が少ない。逆に低いところに巣をかけると台風が多い。		言い伝え
142182-1	神奈川県	綾瀬市	辰巳風はアク風	台風のとときに東南から吹く風は最も強く、ときに家を潰した	『綾瀬市史8(下)別編 民俗』
142182-2	神奈川県	綾瀬市	巽の風はよくない	関東大震災のとときに、巽の方向に入道雲があった	『綾瀬市史民俗調査報告書4上土棚の民俗』
142182-3	神奈川県	綾瀬市	風除けのシセキにはモチノキを植える	家の周りに大きな木(シセキ)を植えて風を防ぐ	『綾瀬市史8(下)別編 民俗』
142182-4	神奈川県	綾瀬市	モチの木の葉は水を吐いて火を寄せつけない	シセキは防火にも役立つ	『綾瀬市史8(下)別編 民俗』
142182-5	神奈川県	綾瀬市	アシナガバチの巣の位置が下の方にあるときは台風が多い		『綾瀬市史民俗調査報告書3深谷の民俗』
142182-6	神奈川県	綾瀬市	母屋を建てるにはオカがいい	家は地盤のよい台地に建てるとよい	『綾瀬市史8(下)別編 民俗』
142182-7	神奈川県	綾瀬市	地震の道がある	建物の立地している場所によって被害の強弱がある	『綾瀬市史民俗調査報告書4上土棚の民俗』
143-1	神奈川県		やすで虫がたくさん落ちる時は地震あり	動物の行動からの地震を予知 神奈川県三崎地方	「災害予知ことわざ辞典」大後美保編 東京堂出版昭和60年5月刊所収
143-2	神奈川県		雨神立は早のもと	・雷から干ばつを予知 神奈川県三崎地方 ・大山方面に雷鳴が聞こえるときには三浦地方には雨が降らないで日照りとなる。	「災害予知ことわざ辞典」大後美保編 東京堂出版昭和60年5月刊所収
143-3	神奈川県		南東風烈しければ時化	・風から暴風雨を予知 神奈川県箱根小田原地方 ・夏から初秋に台風が襲来する際に南東風が強くなる。	「災害予知ことわざ辞典」大後美保編 東京堂出版昭和60年5月刊所収

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
143-4	神奈川県		秋季沖に立雲すると波	雲から海荒れの予知 神奈川県小田原地方	「災害予知ことわざ辞典」大後美保編 東京堂出版昭和60年5月刊所収
143-5	神奈川県		入道雲西へなびくは波が出る	雲から海荒れの予知 神奈川県三浦半島	「災害予知ことわざ辞典」大後美保編 東京堂出版昭和60年5月刊所収
143-6	神奈川県		西波は波小さし	・風から海荒れの予知 神奈川県小田原地方 ・夏に言われる	「災害予知ことわざ辞典」大後美保編 東京堂出版昭和60年5月刊所収
143-7	神奈川県		竹藪にげる		『六浦文化研究』（10号）山田善一「藤田光太郎翁聞書」所収
15201-1	新潟県	新潟市	地震のとき「マンザイロク、マンザイロク」といって、竹やぶに逃げる。	竹やぶは、倒れるものがない。かかった。「マンザイロク」は「万歳落（マンザイラク）」がなまったもので、危険なときにその災害を免れるために唱えたとされる呪文	
15206-1	新潟県	新発田市	・地震 神棚からタンコロ（神仏へ供える油に灯芯をさした灯具）とオミキスズ（御酒徳利）が落ちたら子供を竹藪へやれ。クデン（供殿）が落ちたら、ヒドコにカナバチかけて大人もにげれ。		新発田市史資料第五卷民俗（下）（昭和47年）
15206-2	新潟県	新発田市	・地震 肥塚にあがるとよい。焚火にはすり鉢をかぶせよ。		新発田市史資料第五卷民俗（下）（昭和47年）
15206-3	新潟県	新発田市	・地震 地震のときに竹藪に逃げれば地割れない。カマドにかな鉢をかぶせれ。		新発田市史資料第五卷民俗（下）（昭和47年）
15206-4	新潟県	新発田市	・地震 ヒドコにすり鉢をかぶせて竹原へ走れ。また、マイザイロク、マイザイロクと唱えること。		新発田市史資料第五卷民俗（下）（昭和47年）
152-1	新潟県		地震の後に大雪がくる		言い伝えのみ
15441-1	新潟県	川口町	雪崩の危険な所を通行する時「日頃進行する川井の愛染様を念じて大きく拍手を打ってから通る」	雪山での大きな物音は雪崩を誘発することがあるため の一種の信仰事例	川口町史p.134
16209-1	富山県	小矢部市	地震が起きる前には、スズメ・カラス等の鳥がいなくなる。	鳥が地震を事前に察知して、行動を起こすと考えられていた。	「言い伝え」として口伝情報のみ
16209-2	富山県	小矢部市	地震が起きている最中には、『ゆんもどせ。ゆんもどせ。（揺り戻せ。揺り戻せ。）』と唱える。	地震の揺れを『揺り戻せ。』と唱えることで、少しでも揺れが早く収まるように願ったものと考えられる。	「言い伝え」として口伝情報のみ
16209-3	富山県	小矢部市	川沿いに植えられている木を、むやみに切ってはいけない。	川の堤防沿いには、堤防の破壊を防ぐために、根を張るような柳等の木々が多く植えてあった。その木々を切ることを戒める意味で、言い伝えられていると思われる。	「言い伝え」として口伝情報のみ

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
16209-4	富山県	小矢部市	カメムシが大量発生した年は、大雪が降る。	長年の経験上、このような形になったものと思われる。	「言い伝え」として口伝情報のみ
182010-1	福井県	福井市	福井西藤島地区では、三日雨が降れば水太鼓が鳴る」との言い伝えがある。	この地区は、九頭竜川、日野川、足羽川が合流し、土地が低いことから洪水災害への備えを示唆している。	九頭竜川水系治水百周年記念体験集（2000）添付コピー
182061-1	福井県	勝山市	銀杏の葉が早く落ちた年は大雪。		勝山市史 第1巻 風土と歴史
182061-2	福井県	勝山市	里芋の根が弱いと大雪。		勝山市史 第1巻 風土と歴史
182061-3	福井県	勝山市	大雪の年は熊が里に出てくる。		勝山市史 第1巻 風土と歴史
182061-4	福井県	勝山市	地震の前は鳥は木に止まっている。		勝山市史 第1巻 風土と歴史
182061-5	福井県	勝山市	蜂が高い所に巣を作った年は雪が多い。		勝山市史 第1巻 風土と歴史
183610-1	福井県	三国町	地震の時は竹やぶに逃げろ	竹やぶは倒れるものがなく根が強く張っているので安全	「言い伝え」として口伝情報のみ
183610-2	福井県	三国町	北東、東よりの風が吹く時は露が降り、南西、南よりの風が吹く時は露が降りない。	三国町は海岸沿いで漁業を営んでいる人が多く、北東、東風で露が降りた時は海の穏やかで沖に出ても安全であるが、逆に南西、南風で露が降りていない時は強い風が吹き、沖に出たら危険だという事です。	昔からの「言い伝え」としての口伝情報のみ
183610-3	福井県	三国町	三国町にはその日の天候等、日和を押し量る場所として日和山という地名が残っています。	高台にあり海、川等全体が一望でき、その日の安全に係わる天候を判断する場所として最適だという事です。	昔からの「言い伝え」としての口伝情報のみ
183822-1	福井県	池田町	地震が起きたら竹藪が安全	竹は根がしっかり張っているから安全	口頭による言い伝えるから安全
183822-2	福井県	池田町	大雨が降ったら山側（高台）へ避難せよ	池田町内部子川の増水に関する言い伝えで浸水の虞があり高台への避難を伝承する。	口頭による言い伝える
192023-1	山梨県	富士吉田市	富士山がカサをかぶると、二日後に雨になるか、風が吹く。	風雨の前兆現象を示唆。	富士吉田市史民俗編第2巻（P. 263～264）
192023-2	山梨県	富士吉田市	杓子山から自分（向原）の方へ雲が来るときは大きな風が吹く。	強風の前兆現象を示唆。	富士吉田市史民俗編第2巻（P. 263～264）
192023-3	山梨県	富士吉田市	アシナガ蜂の巣が里へ降りたら、大風や嵐になる。	台風の前兆現象を示唆。	富士吉田市史民俗編第2巻（P. 263～264）
192023-4	山梨県	富士吉田市	鳥が高い所へ巣を作ると、その年は台風は来ない。低い所へ作ると台風が来る。	台風の前兆現象を示唆。	富士吉田市史民俗編第2巻（P. 263～264）
192023-5	山梨県	富士吉田市	ねずみが一匹もいなくなると火事になる。	火事の前兆現象を示唆。	富士吉田市史民俗編第2巻（P. 263～264）
192023-6	山梨県	富士吉田市	月の近くに星があると火事になる。	火事の前兆現象を示唆。	富士吉田市史民俗編第2巻（P. 263～264）

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
192082-1	山梨県	南アルプス市	寒中に降水が無いときは夏日照り	干害の前兆現象としての言い伝え	若草町誌
192082-2	山梨県	南アルプス市	空が黄色になる時は大風となる。	黄砂現象のことか	若草町誌
192082-3	山梨県	南アルプス市	流星多ければ日照り続く	干害の前兆現象としての言い伝え	若草町誌
192082-4	山梨県	南アルプス市	白雲糸を引けば暴風雨	台風など風水害の前兆現象をさす。	若草町誌
192082-5	山梨県	南アルプス市	暴風雨の前には、松の緑が風の来る反対方向に曲がる。	台風など風水害の前兆現象をさす。	若草町誌
192091-1	山梨県	北杜市	つばめが低く飛んでいたら雨が降る	気象、天候の変化	「言い伝え」としての口伝情報のみ
192091-2	山梨県	北杜市	風が東から吹くと雨が降る	気象、天候の変更	「言い伝え」としての口伝情報のみ
192091-3	山梨県	北杜市	諏訪口が晴れると天気が回復する	気象、天候の変更	「言い伝え」としての口伝情報のみ
192091-4	山梨県	北杜市	彼岸花を家の中に飾ると火事が起きる	火災予防	「言い伝え」としての口伝情報のみ
192121-1	山梨県	上野原市	地震の時は、竹やぶに逃げろ。	竹藪は倒れるものがなく、根が強く張っているので安全	「言い伝え」としての口伝情報のみ
193-1	山梨県		ネズミが一度にいなくなると火事になる。	火事予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-10	山梨県		夜、ネズミが激しく跳び回ると、その夜火災が起こる。	火事予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-11	山梨県		ボケの花を縁の下に入れると火事になる。	火事予防。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-12	山梨県		ヒマヤフンドシ（赤い腰巻き）は火事を除ける。	火事予防。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-13	山梨県		柿の種を火にくべると火の神が祟る。	火事予防。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-14	山梨県		長柄の鎌を風に向かって立て「ホオーイホイ、ホオーイホイ」と唱えながら風を切ると、大風・台風がおさまる。	大風・台風予防。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-15	山梨県		台風の日によく磨ぎすました鎌の刃を風上に向けて長い竹竿の上にくくり付ける。	台風予防。風ノ神を怖がらせて除けて通ることを期待。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-16	山梨県		モロコシの根が高いところから出る年には台風が来る。	火事予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-17	山梨県		オコワ（赤飯）の茶漬けを食べると御祝言の時、嵐になる。	嵐予防。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-18	山梨県		大風の吹く年はクモが巣を掛けない。	大風予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-19	山梨県		アリが畳に上がれば大風。	大風予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-2	山梨県		ツバメが巣を作り始めていなくなると火事になる。	火事予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-20	山梨県		クモが巣を下の方へ作れば台風になる。	台風予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-21	山梨県		夏の西風、大風のもと。	大風前兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
193-22	山梨県		朝虹その日はたて洪水。	洪水予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-23	山梨県		ハチの巣が高い所であれば大水（水害）、低い所であれば大風。	大水・大風予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-24	山梨県		青ん泥がでると大水になる。	大水前兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-25	山梨県		朝焼けはその日の洪水。	洪水予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-26	山梨県		夕虹は百日の照り、朝虹は川越すな。	日照り・洪水予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-27	山梨県		川が汚れれば大水になる。	大水予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-28	山梨県		節分の豆を食べると落雷をよけられる。	雷よけ。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-29	山梨県		雷よけ「くわばらくらばら」と唱える。	雷よけ。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-3	山梨県		爪を火にくべると火に祟る。	火事予防。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-30	山梨県		雷（いかづち）という部落で、昔よく落雷があったが雷大神を祀った。すると落雷はおさまった。	雷よけ。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-31	山梨県		避雷のため、野外ではできるだけ身を低くする。	雷よけ。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-32	山梨県		雷を近づけないために線香をたく。	雷よけ。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-33	山梨県		雷を避けるには、かやの中へ入るとよい。	雷よけ。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-34	山梨県		お山（富士山）に早く雪が降った年は、里に雪が少ない。	雪予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-35	山梨県		初午に風が吹けば桑の値が高い。（遅霜のおそれがある）	霜予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-36	山梨県		地震の時は、竹藪に逃げろ。	竹の根が張っているので地面が裂けない。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-37	山梨県		グラッときたら、火の始末。	火災防止。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-38	山梨県		ナマズが騒ぐと地震が起きる。	地震予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-39	山梨県		雉が鳴けば地震。	地震予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-4	山梨県		上棟式の日の雨は火伏せ。	火事予防。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-40	山梨県		四ツにちゃっかりその日の洪水。（十時に雨が上がってもその日は洪水になる。）	洪水予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-41	山梨県		川柳が橋をかけると洪水になる。（兩岸の柳が近づくと洪水になる。）	洪水予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
193-42	山梨県		ヤハズ（東南方向の山）が明るくなれば、風が強くなる。	強風予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-43	山梨県		子どもがお茶を飲むと風になる。	風予防。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-44	山梨県		道芝の茎のふくらみが根元にある年は台風が早く来る。	台風予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-45	山梨県		台所の荒神は赤い物が嫌いで、見せると火事になる。	火事予防。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-46	山梨県		タケノコが親竹より伸びると台風が来る。	台風予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-47	山梨県		かまどを北向きに作ると火に祟る。	火事予防。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-48	山梨県		アカギレが痛むと強風になる。	強風予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-49	山梨県		葉山に雪なし。（秋、落葉しないうちに雪が来る年は、大雪がない。）	大雪がないことの予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-5	山梨県		火柱が立つと火事が起きる。	火事予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-50	山梨県		一ノ酉が早いと火事が多い。	火事予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-6	山梨県		初午が早い年には火事が多い。	火事予兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193615-1	山梨県	増穂町	雄の三毛猫が天井に上ると大水が出る。	河川への警戒を促す前兆現象を示唆	増穂町誌P.1076（昭和51年）添付コピー（資料2-1）
193615-2	山梨県	増穂町	なまずがひげを動かすと地震が起きる。	地震への警戒を促す前兆現象を示唆	増穂町誌P.1076（昭和51年）添付コピー（資料2-1）
193-7	山梨県		箕に塩を入れて北に向かってまくと火事を防ぐことができる。	火事予防。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-8	山梨県		腰巻を屋根に登ってかざせば類焼をまぬがれる。	火事予防。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
193-9	山梨県		日が暮れてから塩を買うと火を呼ぶ。	火事予防。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
194301-1	山梨県	富士河口湖町	山の生物が里に下りたら、火山爆発の前兆	一般に噴火する前は火山性の微動地震が起こるとか、地熱が高くなる等の現象があることが多く、そのために動物が麓の方へ逃げることは考えられる。	「富士山北麓のことわざと気象」元河口湖測候所長 細田剛著
194301-2	山梨県	富士河口湖町	台風の時辰巳の風が吹けば、家の東側を防御すべし	辰巳の風とは南東から吹く風のこと、台風が紀伊半島付近から東海地方の間に上陸し、岐阜・長野県側を通る時、山梨県は台風の危険半円に入り南東の強い風が吹き、富山県付近で南西・新潟県付近へ進むと西寄りの風に変わり次第におさまる。	「富士山北麓のことわざと気象」元河口湖測候所長 細田剛著

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
194301-3	山梨県	富士河口湖町	冬の暖かい日の後は雪が降る	冬の寒さも2月中頃を過ぎると、ときおり中国華中の高気圧が移動性となって日本を覆い、陽射しも何となく春の温もりを感じさせるようになる。しかし、その後すぐに東シナ海の低気圧が本州南岸を通り、北から冷たい風が吹いて冬にもどる。これを繰り返しながら春が近づいてくる。	「富士山北麓のことわざと気象」元河口湖測候所長 細田剛著
194301-4	山梨県	富士河口湖町	富士山が笠をかぶると強い風が吹く	富士山は台風など特別の時以外は一年中ほぼ西風が吹いており、山頂で風が強く吹くといろいろの雲ができ笠雲も幾重にもなる。風は上層が地上より先に強く吹くため、やがて地上でも風が強くなることが予想される。	「富士山北麓のことわざと気象」元河口湖測候所長 細田剛著
194301-5	山梨県	富士河口湖町	御坂方面から来る雷は大暴れする	雷雨予兆	「言い伝え」として口伝情報のみ
201-1	長野県		機織りの伝説・・・水の流れる音を機を織る音と感じた。	水音をいかに読み取るか。	天竜川の淵伝説 p.23-24（笹本正治著）「語りつぐ天竜川」第5巻（社）中部建設協会発行
201-2	長野県		川死霊・・・川自体があのだとつながる場所として意識されていた。	川は事故の起こりやすい場所、それゆえに御霊の留まりやすい場所であり、人間の恐れがある。	天竜川の淵伝説 p.28-29（笹本正治著）「語りつぐ天竜川」第5巻（社）中部建設協会発行
201-3	長野県		土石流のことを「蛇抜け」と呼んでいる。	大蛇、竜は水の神であり、ともすると洪水を起こす。「災害に備えよ」との過去から未来へのメッセージ。	天竜川の淵伝説 p.16-17、50-51（笹本正治著）「語りつぐ天竜川」第5巻（社）中部建設協会発行
201-4	長野県		水先へ魚が流れ、岸へ寄ってくるのは、大水の出鼻であることを知らなければならぬし、絶対にこの魚をとってはならない。必ず後に大水となる。	魚が流れ岸によってくるのは、大水の前兆である。	「上田市誌」の「満水記録」
202011-1	長野県	長野市	ねずみが急にいなくなると、火事になる。	火災の前兆現象を示唆	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-10	長野県	長野市	女性の腰巻を物干しに掛け、類焼を防いだ。	火災を防ぐまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-11	長野県	長野市	火事を出ないように浅川の火伏の神に講をたてて、お参りにいった。	火災を防ぐまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-12	長野県	長野市	鬼瓦に水の字を入れると、火事にならない。	火災を防ぐまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-13	長野県	長野市	火事が出ないように荒神様をまつる。	火災を防ぐまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-14	長野県	長野市	火事が出ないように三峯様をまつる。	火災を防ぐまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-15	長野県	長野市	火事が出ないように秋葉様をまつる。	火災を防ぐまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-16	長野県	長野市	火事が出ないように火伏の神仏を拝む。	火災を防ぐまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
202011-17	長野県	長野市	火事が出ないように神社、仏閣の火伏の御札を貼る。	火災を防ぐまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-18	長野県	長野市	戌の日にこたつを作れば、火事にならない。	火災を防ぐまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-19	長野県	長野市	出火や類焼を防ぐために、土蔵の壁に「水」「龍」などの鍍絵をつくる。	火災を防ぐまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-2	長野県	長野市	からすの鳴き声の悪いときは、火事や変わりごとがある。	火災の前兆現象を示唆	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-20	長野県	長野市	雷が落ちないように、線香をともした。	雷徐けのまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-21	長野県	長野市	雷が落ちないように、仏壇へ線香をあげた。	雷徐けのまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-22	長野県	長野市	雷が落ちないように、いろりで線香をたいた。	雷徐けのまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-23	長野県	長野市	雷が落ちないように火鉢で、線香をたき、南無阿弥仏と唱えた。	雷徐けのまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-24	長野県	長野市	雷が落ちないように蚊帳の中に入って、線香をたいた。	雷徐けのまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-25	長野県	長野市	雷が落ちないように「くわばら くわばら」と唱えた。	雷徐けのまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-26	長野県	長野市	雷が落ちないように、お勝手の神様に線香を1～2本あげた。	雷徐けのまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-27	長野県	長野市	雷が落ちないように煙をたてた。	雷徐けのまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-28	長野県	長野市	雷が落ちないように蚊帳の中に入り「くわばら くわばら」と唱えた。	雷徐けのまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-29	長野県	長野市	雷が落ちないように、外にいる時は桑畑に入った。	雷徐けのまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-3	長野県	長野市	蛇が何匹も木に登れば火事が多い。	火災の前兆現象を示唆	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-30	長野県	長野市	雷が落ちないように、女の汚れた腰巻を屋根に投げた。	雷徐けのまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-31	長野県	長野市	雷が鳴ると落ちないように、神棚に上げておいた節分の豆を食べた。	雷徐けのまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-32	長野県	長野市	初雷に節分の豆を食べると、雷が落ちない。	雷徐けのまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-33	長野県	長野市	雷が落ちても、蚊帳の中に入っていると大丈夫という。	雷徐けのまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-34	長野県	長野市	二百十日の大風を防ぐため、神社で「風祭り」などの神事を行う。	台風徐けのまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-35	長野県	長野市	二百十日の大風を防ぐため、竹竿の先に鎌と箕のを付け庭先に立てた。	台風徐けのまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-36	長野県	長野市	水害徐けのため、水神をまつる。	水害徐けのまじない	神仏をまつる
202011-37	長野県	長野市	水害徐けのために、戸隠社をまつる。	水害徐けのまじない	神仏をまつる
202011-38	長野県	長野市	水害徐けのために、伊勢社をまつる。	水害徐けのまじない	神仏をまつる
202011-39	長野県	長野市	地震の時は、竹藪に逃げろ。	竹藪は倒れるものがなく、根が強く張っているので安全	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-4	長野県	長野市	青大将がいなくなると火事が起きる。	火災の前兆現象を示唆	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-40	長野県	長野市	地震徐けのために、鹿島神、香取神をまつる。	地震徐けのまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
202011-41	長野県	長野市	ナマズが騒ぐと地震がある。	地震の前兆現象を示唆	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-42	長野県	長野市	キジがしきりに鳴けば、地震がある。	地震の前兆現象を示唆	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-5	長野県	長野市	きつねが火をくわえて屋根に登る夢を見ると、火事になる。	火災の前兆現象を示唆	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-6	長野県	長野市	初午の早い年は、火事が多いから気をつけろという。	火災の前兆現象を示唆	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-7	長野県	長野市	かまどの火が立ち燃える時は、火の神が怒ったので火に気をつけろという。	火災の前兆現象を示唆	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-8	長野県	長野市	女性の腰巻を振って類焼を防いだ。	火災を防ぐまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
202011-9	長野県	長野市	女性の腰巻を棒に結びつけて屋根に立て、類焼を防いだ。	火災を防ぐまじない	「言い伝え」としての口伝情報のみ
212032-1	岐阜県	高山市	山のほうで雷のような音がしたら、とにかく逃げ出せ。	大雨の時の土砂災害への警戒を促す前兆現象。	「言い伝え」としての口伝情報のみ
212-1	岐阜		大垣祭りの山車をもっている町内は大雨が降っても水がつかない。	輪中内にある古くからの集落は、微高地（自然堤防）に立地していることから言われている。昭和51年の9.12水害で立証。	大垣市の諺として紹介『輪中』伊藤安男・青木伸好著、昭和54年刊行
212-10	岐阜		水防活動の心得1 水防中には「切れる」と言っはいけない。小破しても「切れた」と言っはいけない。	水防活動の士気を失わせないようにするための配慮。	『岐阜県史 史料編近代六』収録史料 原典：昭和10年『水防資料』
212-11	岐阜		水防活動の心得2 堤防が決壊したら、堤防の「馬踏」（堤防の上部）に向かって逃げてはいけない。堤防に沿って走ること。	決壊直後の濁流から避けるには、流れに対し垂直方向に逃げるよう注意したものの。	『岐阜県史 史料編近代六』収録史料 原典：昭和10年『水防資料』
212-12	岐阜		四刻・八刻・十二刻	雨が降り出してから洪水になるまでの時間を表す。揖斐川で8時間、長良川で16時間、木曾川で24時間かかるということ。	輪中地帯に伝わる諺。
212-13	岐阜		昭和34年の伊勢湾台風、昭和35年の第2室戸台風の経験から、屋根を補強し重くした家が多くあった。	風によって屋根を飛ばされた家が多くあったため。しかし、地震が懸念されている現在では、倒壊の危険性が出てきた。	報告者の亡父から聞いた話。亡父は大工であったので、実際その工事に携わっていた。
212-14	岐阜		大垣市の天気伝承1 「兜虹が立ったら大風になる」大垣から見て名古屋の方角（東南）の空に、中央部が切れて見えずに両側の下の方が見える虹が出来たら台風の襲来なので警戒せよ。	大垣市は大垣輪中にあるため、天気に関する伝承が多い。気象学上での根拠は不明で、経験をもとにした伝承と思われる。	『大垣むかし話100話』大垣市文化財保護協会、昭和58年1月刊行
212-15	岐阜		大垣市の天気伝承2 「北国夕立鍋釜を割る」大垣から北西の方角にできる夕立雲で雷雨になると土砂降りになると警告。	天気は北西から変わることを示している。	伊吹山系にかかる雲から天気が予測できることが多い。
212-16	岐阜		輪之内町の天気伝承1 「越前こがれは美濃の大雨」北西（越前方向）の夕焼けは大雨になる（大垣市にも同じ伝承がある）	輪之内町も輪中地域であるため、天気に関する伝承が多い。これも、北西方向の様子から天気を予測している。	『わのうち百話』輪之内町役場、昭和60年5月刊行
212-17	岐阜		輪之内町の天気伝承2 「1日降ったらこぼしからげて2階へあげよ」旧5月1日に雨が降ると、その年は大雨大洪水になるから、こぼし（脱穀機）を2階へあげて用心せよ。	気象学上の根拠は不明。経験をもとにした伝承と思われる。	『わのうち百話』輪之内町役場、昭和60年5月刊行

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
212172-1	岐阜県	飛騨市	2月の積雪期、寒暖の差の激しい時期に、降雪と急激な気温の低下が伴うと雪崩が起こる。地元では「口笛も吹くな、あわ（表層雪崩）が来るぞ!」と恐れられている。	表層雪崩の予知についての言い伝え。	山間地域狭窄部での言い伝えによる。
212-18	岐阜		海の水がにごるのは地震の前触れ。	不明	三河地震後の岐阜合同新聞で、昔からの言い伝えとして紹介されていた。
212-19	岐阜		南海道地震のとき、岐阜地方で南方中空に稲光に似た青白い光が見られた。同様に、三河地震のとき、愛知県形原町・西浦町で、三ヶ根山方面に光が発したという目撃情報が多数報告された。	空中電気の作用ではないかといわれている、との岐阜測候所長のコメントがある。	岐阜タイムス（昭和21年12月22日）
212-2	岐阜		自然堤防は地名から推測できる。例：岡、須賀、高田、西島、須脇、高須、福岡、西小島、東小島、松山中島、古中島、油島、稲山	「須」のつく地名は「洲」が転化したもので、自然堤防を表す。「須賀」は「洲処」の意味。「墨俣」も「洲股」と表記されていた時期がある。	大垣市の諺として紹介 『輪中』伊藤安男・青木伸好著、昭和54年刊行
212-20	岐阜		濃尾震災の前日夜10時頃に震動が長い地震があったが、「いすり返し」がなく「鶉雀」も鳴かなかった。（地震のあとに鳥の鳴かざるは大地震の前兆なり）	大地震の前兆を示す現象か。	『濃尾震災100年記念誌』1991年、大垣市
212-21	岐阜		濃尾震災の時、寺が倒壊して屋根の下敷きになった老婆が、庇に吊ってあった地区の大太鼓の陰にいたため、無傷で助かった。	偶然ではあるが、丈夫な固体の近くにいたため、圧死を免れた例。	『わのうち百話』輪之内町役場、昭和60年5月刊行
212-22	岐阜		家が倒壊したが、火鉢を抱えており、その隙間で助かった老婆の話がある。	偶然ではあるが、丈夫な固体の近くにいたため、圧死を免れた例。	『美濃神戸ふるさと百話』神戸町教育委員会、昭和52年12月刊行
212-23	岐阜県		旧徳山村では、炉には火の神様がおり、神聖化する慣習があった。例：紙を燃やさない、子供がそそうをしたら塩をまく、肉を煮炊きした後は灰を新しく入れ替えるなど	火（炉）に対する注意を喚起するための習慣	『特集と年表でつづる「ひだみの」の災害 岐阜県災害史』岐阜新聞社、平成10年3月刊行
212-3	岐阜		逆に地名から水害をうけやすい場所がわかる。例：足洗（現本巣市）	江戸時代より「水腐場」であったが、水田であったので、人的被害はなかった。戦後、この地に団地が造成されたため、洪水のおりには孤立した。	大垣市の諺として紹介 『輪中』伊藤安男・青木伸好著、昭和54年刊行
212-4	岐阜		輪中の屋敷森は防風林としての機能のほかに、防水林としての役割がある。そのため、水屋のまわりや川に面した所に竹を植えることが多い。	竹は地下茎がしっかりとるので、洪水波を弱め、盛土の崩土・浸食を防ぐ。	大垣市の諺として紹介 『輪中』伊藤安男・青木伸好著、昭和54年刊行
212-5	岐阜		かつて堤防が決壊した場所には、それを示す地名が残る。例：砂入、押堀	「砂入」とは、決壊によって土砂が堆積した場所。「押堀」とは、決壊箇所に来た池のこと。したがって、増水すれば、また決壊する可能性が高い地点と言える。明治29年の大水害での決壊箇所は、古地図にこの地名が記されていたことから実証。	大垣市の諺として紹介 『輪中』伊藤安男・青木伸好著、昭和54年刊行

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
212-6	岐阜		屋敷森は、防水林としての機能のほかに、水屋を持たない階級の人々の一時的な救助の役割をもった。	洪水の時に、木に登って難を逃れた人々のことを書いた古記録がある。	大垣市の諺として紹介 『輪中』伊藤安男・青木伸好著、昭和54年刊行（寛政年間の『出水話略』より引用）
212-7	岐阜		輪之内町の「ごまんどさん」と呼ばれる神社では、祭礼の折に「白蒸し」と称するご飯をふるまう習慣がある。	神社が「助命壇」であり、洪水時の炊き出しの風習。助命壇：水屋を持たない小農たちが洪水時に避難した場所。地主が小作人のために屋敷内に設けた例もある。	大垣市の諺として紹介 『輪中』伊藤安男・青木伸好著、昭和54年刊行（寛政年間の『出水話略』より引用）
212-8	岐阜		輪中地帯の地籍図や古文書に低湿地を示す地名が記されている。例：大沼田、河田田、大ダラ田、底抜（以上地籍図）、水腐場、水損場、亡失田（以上文書）	洪水時に水がつきやすい場所がわかる。	大垣市の諺として紹介 『輪中』伊藤安男・青木伸好著、昭和54年刊行（寛政年間の『出水話略』より引用）
212-9	岐阜		輪中地帯には水神信仰があり、水神を祭っている箇所は「切所（切戸）」であることが多い。	決壊したことのある堤防、川の曲流部の危険な堤防上、洪水時に御神体が流れ着いた場所に水神の祠を設けているから。	大垣市の諺として紹介 『輪中』伊藤安男・青木伸好著、昭和54年刊行（寛政年間の『出水話略』より引用）
215074-1	岐阜県	東白川村	西からくる夕立は、大雨を降らす。		村史（民間知識）
215074-2	岐阜県	東白川村	蜂の巣が低い年は、大風が吹く。	蜂の予知能力	村史（民間知識）
222-1	静岡県		大地震の後には必ず大きな揺り返しがある。	1回目の大地震が収まっても大きな揺り返しがあるから油断しないための教訓	宝永地震の際の「富士山浅間本宮社僧乗蓮院隠居の記録」から 静岡県編『静岡県史』別編2 自然災害誌 1996年
222-2	静岡県		地震の時は、竹やぶに逃げろ。	竹やぶに避難すれば地割れなどから身を守ることができる	宝永地震の際の「富士山浅間本宮社僧乗蓮院隠居の記録」から 静岡県編『静岡県史』別編2 自然災害誌 1996年
222-3	静岡県		地震の後には必ず津波が襲ってくるので、絶対に浜に逃げてはいけない。高台に逃げろ。	津波による被害から逃れるための教訓	「言い伝え」としての口伝情報 静岡県編『静岡県史』別編2 自然災害誌 1996年
222-4	静岡県		津波でも沖に出れば安全で、3つ目を越せば津波の心配が小さくなる	津波は港の入り口でできることなど経験をもとにした知恵。	静岡県編『静岡県史』別編2 自然災害誌 1996年 東伊豆町郷土史同好会編『稲取の大津波と大火事の思い出』1984年
222-5	静岡県		沢の音がしているときは安全だが、沢の音が止まるとこわい。山の臭いをかいだら逃げよ。	大雨時の土石流、土砂災害への警戒を促す前兆現象を示唆	「言い伝え」としての口伝情報 静岡県編『静岡県史』別編2 自然災害誌 1996年
232017-1	愛知県	豊橋市	地震の時は竹藪に入れ		豊橋地方俚諺

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
232017-2	愛知県	豊橋市	地震のゆすった時 五七の雨に 四つひでり 六つ八つ風に 九は病		豊橋地方俚諺
232025-1	愛知県	岡崎市	「とうへんぼくどろすり鉢」という歌がはやった。	矢作川、伊賀川の出水により、周辺が泥におおわれた。	岡崎市史 第4巻 P423 添付資料2-1
232025-2	愛知県	岡崎市	久後崎の地は当時「流れ久後」と呼び、人々は久しく家屋を建てる事を嫌った。久後崎は岡崎藩の時より、「水越堤」と言われた。	大雨のたびに菅生川の堤防が切れ、出水した。菅生川の水位がある程度以上になると水があふれる仕組みとなっていた。	六ツ美村誌 P17 添付資料2-2
232025-3	愛知県	岡崎市	長雨を見れば直ちに東方山地に避難し、水難去ると聞けば村に帰るのを常とした。	矢作川は当時堤防四五尺程で時々洪水を被った。	六ツ美村誌 P14 添付資料2-3
232025-4	愛知県	岡崎市	水中の穂は泥を落とすを可とす。	当時水害調査等のため、舟で通行した所が、自然に舟や棹にふれて、泥の洗い落とされた所のみが良く成熟した。	六ツ美村誌 P18
232025-5	愛知県	岡崎市	天保13年布令 矢作川の水位が1丈2尺になったら各町大桶20個、役所よりの通報により早々持参し、到着後御橋の東側より水を一杯に張り、据え置くこと。大桶は町中ありあわせの天水桶でよい。	洪水時、浮力で木橋が浮き上がらないようにするため。	矢作川 P36 添付資料2-5
232025-6	愛知県	岡崎市	大樹寺の命塚	洪水の時に避難するため、砂を集め、石を積み、作り上げたもの。	矢作川 P206 添付資料2-6
232025-7	愛知県	岡崎市	千鳥（海の鳥）が陸上に飛んでくるは、暴風の兆しである。		新編岡崎市史19巻 民俗 添付資料2-7
232025-8	愛知県	岡崎市	蜂が草木の根近くに巣を営めば、その年は暴風が多い。		新編岡崎市史19巻 民俗 添付資料2-7
232025-9	愛知県	岡崎市	異常に暖かいと、地震が来る。		新編岡崎市史19巻 民俗 添付資料2-7
232025-10	愛知県	岡崎市	きじが鳴けば、地震がある。		新編岡崎市史19巻 民俗 添付資料2-7
232025-11	愛知県	岡崎市	四八（4月・8月）の照、五七の雨、六の風、九の病は地震の兆し。		新編岡崎市史19巻 民俗 添付資料2-7
232033-1	愛知県	一宮市	ヘビが木に登ると雨が降る		口頭伝承
232033-2	愛知県	一宮市	カエルが家の中に入ると大雨が降る		口頭伝承
232033-3	愛知県	一宮市	トンボが家の内に入ると台風が吹く		口頭伝承
232033-4	愛知県	一宮市	大空でトビが輪を描くと上天気になる		口頭伝承
232033-5	愛知県	一宮市	夕焼が西南にコガレルと明日は晴れる		口頭伝承
232033-6	愛知県	一宮市	夕焼が西北にコガレルと明日は雨が降る		口頭伝承
232033-7	愛知県	一宮市	夜月に輪ができると明日は雨が降る		口頭伝承
232033-8	愛知県	一宮市	朝から雨が降り午前10時頃止んでうす陽がさすと、午後は雨が降る		口頭伝承
232033-9	愛知県	一宮市	伊勢山が荒れると雪が降る		口頭伝承

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
232033-10	愛知県	一宮市	川虹立ったら川越えするな		萩原町史（昭和44年）
232033-11	愛知県	一宮市	寒に大雨だと夏大水になる		萩原町史（昭和44年）
232033-12	愛知県	一宮市	大火のあとには雨が降る		萩原町史（昭和44年）
232041-1	愛知県	瀬戸市	地震がきたら竹藪に逃げると言った。	竹藪は根が張っていて、安全であるため。	『瀬戸市史民俗調査報告書2 水野・掛川地区』
232041-2	愛知県	瀬戸市	地震がきたら頭気をつけると言って、布団を被った。	頭部を守るため。	『瀬戸市史民俗調査報告書2 水野・掛川地区』
232041-3	愛知県	瀬戸市	雷が鳴ると蚊帳の中に入り、「くわばら、くわばら」と唱えた	雷が落ちてこないとされた。	『瀬戸市史民俗調査報告書2 水野・掛川地区』
232041-4	愛知県	瀬戸市	雷が鳴ると蚊帳の中に入り、「くわばら、くわばら」と唱え、仏壇にしまっておった節分のときの炒った豆を食べた。	雷が落ちてこないとされた。	『瀬戸市史民俗調査報告書4 品野地区』
232041-5	愛知県	瀬戸市	大風が吹くと、竹や屋敷の木の先に鎌を縛り付けて、刃先を風上に向けて立てた。	風魔を切るといわれていた。	『瀬戸市史民俗調査報告書4 品野地区』
232114-1	愛知県	豊田市	山の木を伐採して15年程経つと根が腐り、地すべりが起きやすくなる。	山は、木の根によって崩れにくくなっている。	聞き取りした記録から 豊田市矢作川研究所発行「東海豪雨矢作川流域・記憶と記録」平成14年6月
232114-2	愛知県	豊田市	鉄砲水が出る前には水の臭いがドロ臭くなる。	土砂災害への警戒を促す前兆現象を示唆。	聞き取りした記録から 豊田市矢作川研究所発行「東海豪雨矢作川流域・記憶と記録」平成14年6月
232114-3	愛知県	豊田市	沢の水が止まると、それは上流に天然ダムが出来ているためであり危険が高まっている。	土砂災害への警戒を促す前兆現象を示唆。	聞き取りした記録から 豊田市矢作川研究所発行「東海豪雨矢作川流域・記憶と記録」平成14年6月
232114-4	愛知県	豊田市	ハチの巣が高い所にある年は、風が吹かないが、低い年は台風が来る。クモが低い所に巣を作るときは、台風が来る。虫が鳴き出すと、台風がおさまる。	動物の習性により気候を予測するもの	「言い伝え」としての口伝情報 足助町刊行「あすけのことわざ」1979年
232114-5	愛知県	豊田市	北西の方角の、木の葉の裏側が見えるようになると、大風が吹く。東よりの風が吹き、雲が千切れ千切れに飛ぶと、土砂降りの雨となる。北上する雲が、二つに大きく分れるは、台風の兆。雲が、北西の方向へ速く流れるは、台風の前兆。		「言い伝え」としての口伝情報 足助町刊行「あすけのことわざ」1979年
232114-6	愛知県	豊田市	カボチャのつるの、多いのは台風多し。ナンバキビの根が高くまで張る年は、台風が来る。カキやナツメなどの、当り年は台風が多い。	植物の育成状況により気候を予測するもの	「言い伝え」としての口伝情報 足助町刊行「あすけのことわざ」1979年

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
232114-7	愛知県	豊田市	キジが、けたたましく鳴けば、地震がある。ナマズがさわぐと地震がおこる。地震の前にはネズミが居なくなる。又は急に騒ぎ出す。へびが、屋根に登るは、地震の知らせ。アリの多い年は地震多し。海底の魚が浮き上がるは、地震の前兆。		「言い伝え」としての口伝情報 足助町刊行「あすけのことわざ」1979年
232114-8	愛知県	豊田市	大日照り（長日照り）と長雨のあとに、地震がある。月の色が、赤味を帯びて平素と変わった色をしていると地震がある。風のない、どんよりした日に、地震がよく起こる。東から西にかけて、空に細長い雲が発生すると、地震が心配。水にひたしたもち米が、黄色になると、地震がある。		「言い伝え」としての口伝情報 足助町刊行「あすけのことわざ」1979年
232173-1	愛知県	江南市	木の葉がひらひらと裏返るときは風が強くなる。逆に葉が下に垂れるときは収まってくる。		言い伝えのみ。
232173-2	愛知県	江南市	台風が来ると、「ホーイホーイ」といって竹の先に鎌をつけ、敷地内に立てる。そして「ホーイホーイ」と言って、台風を追い払った。	「台風除け」になると言われた。	言い伝えのみ。
232203-1	愛知県	稲沢市	こがし祭り（稲沢市北市場町）の山車に飾られた「切り花」は祭礼後に切り落とされ、投げられる。これを拾い、軒先に飾ると厄除けや雷除けになると言われている。		稲沢の年中行事（稲沢市史資料第31編）中「夏の行事—こがし祭り」
232246-1	愛知県	知多市	「大風の吹く数時間前に、伊良湖がドンドン鳴る。」	台風の来る前に山の上に登ると南の海（渥美半島伊良湖岬あたり）が鳴っているのが聞こえる。	知多市佐布里地区での口承
232246-2	愛知県	知多市	台風が太平洋を通る時の風向き 東の風→北西の風→西北西の風→南西の風と変わっていく 台風が南方を通過するときの風向き 東の風→南西の風→西北の風と変わっていく		知多市八幡地区での口承
232327-1	愛知県	愛西市	多度渡りの雲は台風が来る		八開村史民俗編6 1 1 ページ
232327-2	愛知県	愛西市	乾がコガレル（夕焼け）と台風が来る		八開村史民俗編6 1 1 ページ
232327-3	愛知県	愛西市	東の方がキリアガル（明るくなる）と台風		八開村史民俗編6 1 1 ページ
232327-4	愛知県	愛西市	蜂が家の西側・北側に巣くう（作る）と台風		八開村史民俗編6 1 1 ページ
233-1	愛知県		台風が来ると、「ホーイホーイ」といって竹の先に鎌をつけ、やしきの柿の木などに縛り付けることがあった。市内のところによっては「ホーホー」と叫んだ地域もあった。	こうすると魔除け「台風除け」になるといわれた。	瀬戸市：「瀬戸市史民俗調査報告書二 水野・掛川地区」（2002） 「瀬戸市史民俗調査報告書四 品野地区」（2004）
233-10	愛知県		トウキビの根が高く出ている年は、アラシがある	植物の生育状況により、気候を予測するもの	口伝によるもの（旭町）
233-11	愛知県		スガリ（蜂）が低いところに巣を作る年はアラシがくる	動物の生態状況により、気候を予測するもの	口伝によるもの（旭町）
233-12	愛知県		ミソッチョが家の近くまでくると大雪になる	動物の生態状況により、気候を予測するもの	口伝によるもの（旭町）
233-13	愛知県		雉は、春に啼くもので他の時に啼くと地震が来る	動物の生態状況により、気候を予測するもの	口伝によるもの（旭町）

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
233-14	愛知県		春秋の地震は、弱いが、夏冬の地震は、強い	過去の経験からの比較	口伝によるもの(旭町)
233-15	愛知県		竹やぶの下に、家を作ってはいけない	竹やぶの根は、浅く張っているため、大雨の際は、地すべりを起こしやすい	口伝によるもの(旭町)
233-16	愛知県		寒に木の葉が流れると、その年は大荒れとなる。	この地方は寒の時期にはほとんど雨が降らず、木の葉をながしきするような大水は出ないのが普通。寒の出水自体が異常事態で、その異常さからその年の降水を予測した。	「言い伝え」としての口伝情報のみ(東栄町)
233-17	愛知県		土用には「土用登り」といって西風があつて雲がのぼれば雨となる。もし西風が吹かずに雨が降れば、大荒れとなる。	夏の普段の雲の流れと風向きを普遍的なものと記憶し、それ以外の場合の傾向を大雨の前兆とした	江戸期の私日記「板柿一統記」天保3年の項の記述(東栄町)
233-18	愛知県		北へ雲がどんどん(速く)行くと大風が吹く	上空の風向きによる大風の経験則	低気圧が西にある時の風向きは実際こうなる。(東栄町)
233-19	愛知県		朝焼けは雨、昔は大水がよく出た。		「言い伝え」としての口伝情報のみ(東栄町)
233-2	愛知県		雷が鳴ると蚊帳吊って中に入って、「くわばら、くわばら」といい、節分の折に仏壇にしまっておいた炒り豆を食べると雷が落ちないといわれた。	こうすると雷除けになるといわれた。	瀬戸市:「瀬戸市史民俗調査報告書四品野地区」(2004)
233-20	愛知県		雲が辰巳の方向へ行くと大きな雷がなる。		「言い伝え」としての口伝情報のみ(東栄町)
233-21	愛知県		山のねが鳴ると大風が吹く	「ね」は尾根のこと。高い所は平地よりも早く風が吹くので、大風の前兆とした。	「言い伝え」としての口伝情報のみ(東栄町)
233-22	愛知県		寒に雨が多いと土用に大水がある	大水への警戒を促す前兆現象を示唆	津具村誌 資料編II p364
233-23	愛知県		雨の降っている時、地震があると天気がよくなる		鳳来町誌 民俗資料編(1) 民俗資料
233-24	愛知県		雨上がりに山鳴りすると天気が変わる。		鳳来町誌 民俗資料編(1) 民俗資料
233-25	愛知県		朝虹はその日に洪水		鳳来町誌 民俗資料編(1) 民俗資料
233-26	愛知県		ごうね(わかにな)が岸へよると鉄砲水がでる。		鳳来町誌 民俗資料編(1) 民俗資料
233-27	愛知県		五郎十郎の涙雨。(旧暦5月28日の曾我兄弟の命日には、たとえ三粒でも雨が降る)		作手村誌(p115)第三章「自然と人間のかかわり」
233-28	愛知県		地震がきたら、高台に逃げろ。	津波による被害から逃げるための教訓	「言い伝え」としての口伝情報のみ(渥美町)
233-29	愛知県		天気朦朧として蒸し暑いのは地震の前兆。	異常気象によって地震の発生を予言し、注意を喚起するための言い伝え	「言い伝え」としての口伝情報のみ(渥美町)
233-3	愛知県		地震の時は、竹やぶに逃げろ	値が強く張っているので安全	「言い伝え」としての口伝情報のみ(西春町・弥富町)

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
233-4	愛知県		台風の前風が強い時は裏口を開けよ。	風の抜け道を確保して、屋根が飛ばされるのを防ぐ。	言い伝えのみ。（弥富町）
233439-1	愛知県	師勝町	台風するとき、鎌の刃先を南東に向けて木に縛りつけ、拍子木を強く打ちながら「ホーイ、ホイ。ホーイ、ホイ。」と叫ぶ。	作物に害を与える大風を切り裂く。	師勝町：師勝の民俗誌（1992）P22（添付資料：2-1-1）
233-5	愛知県		裏山が音をたてたら気をつける	崩壊(崩れる)する前兆として「ミシミシ」と音をたてることがある	言い伝え(小原村)
233-6	愛知県		「大風の吹く数時間前に、伊良湖がドンドン鳴る。」	台風の来る前に山の上に登ると南の海(渥美半島伊良湖岬あたり、)が鳴っているのが聞こえる。	知多市佐布里地区での口承
233-7	愛知県		台風が太平洋を通る時の風向き 東の風→北西の風→西北西の風→南西の風と変わっていく 台風が南方を通過する時の風向き 東の風→南西の風→西北の風と変わっていく		知多市八幡地区での口承
233-8	愛知県		楮の葉が巻いている年は、大風がくる	植物の生育状況により、気候を予測するもの	口伝によるもの(旭町)
233-9	愛知県		チカラシバの葉の横に段が一段あると大風が1回、二段あると2回くる	植物の生育状況により、気候を予測するもの	口伝によるもの(旭町)
234231-1	愛知県	甚目寺町	地震の時は、竹藪に逃げろ。	竹藪は、根が強く張っているので安全。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
234231-2	愛知県	甚目寺町	地震の時は、便所に逃げろ。	ひと昔前の便所は、構造上潰れにくかったのではないかと。	「言い伝え」としての口伝情報のみ。
234265-1	愛知県	十四山村	去年の竹より今年の竹が高く伸びた年は台風はこない	竹が根を張るより伸びることを選んだと解釈したのではないかと。竹は根を張るため、本村の生命線である堤防の強化のため植えられている。	十四山村史 民俗編
234265-2	愛知県	十四山村	台風の前触れは、沖（南方）が鳴る	地区の南から来ると台風被害がでることを知っていたのではないかと。	十四山村史 民俗編
234265-3	愛知県	十四山村	巨大台風の前触れは、沖が明るく切れ上がる	経験的な教訓と思われる	十四山村史 民俗編
234265-4	愛知県	十四山村	“カブ”と言って、一丈ほどの虹のようなものが現れると台風が来る前触れ	経験的な教訓と思われる	十四山村史 民俗編
235628-1	愛知県	東栄町	寒に木の葉が流れるとその年は大荒れとなる。	寒の時期にはほとんど雨が降らず、木の葉を流し去るような大水が出ないのが普通。寒の出水自体が異常事態で、その異常さからその年の降水を予測した。	「言い伝え」としての口伝情報のみ
235628-2	愛知県	東栄町	土用には「土用登り」といって西風があつて雲が登れば雨となる。もし西風が吹かずに雨が降れば大荒れとなる。	夏の普段の雲の流れと風向きを普遍的なもの記憶し、それ以外の場合の傾向を大雨の前兆とした。	江戸期の私日記「板柿一統記」天保年の頃の記述
235628-3	愛知県	東栄町	北へ雲が速く流れると大風が吹く。	上空の風向きによる台風の経験則	「言い伝え」としての口伝情報のみ
235628-4	愛知県	東栄町	朝焼けは雨、昔は大水がよく出た。		「言い伝え」としての口伝情報のみ

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
235628-5	愛知県	東栄町	山のねが鳴ると大風が吹く。	「ね」は尾根のこと。高いところは平地よりも早く風が吹くので、大風の前兆とした。	「言い伝え」としての口伝情報のみ
235628-6	愛知県	東栄町	雲が辰巳の方向へ流れると大きな雷が鳴る。		「言い伝え」としての口伝情報のみ
236047-1	愛知県	御津町	地震の時は竹やぶに逃げろ	根が強く張っているので安全	「言い伝え」として口伝情報のみ
242152-1	三重県	志摩市	地震がきたら、高台に逃げろ。	津波による被害から逃れるための教訓	
252026-1	滋賀県	彦根市	浸水に備えて	水に浸かったとき、たんすを梁に吊るため「川べりに住んでいたら、藁で作った縄を3玉くらいいつでも用意しておけ」	字誌「ふるさと本庄」
252026-2	滋賀県	彦根市	地震の時は、竹やぶに逃げろ。	竹藪は倒れるものがなく、根が強く張っているので安全	「言い伝え」としての口伝情報のみ
262013-1	京都府	福知山市	降雨時、市街地では、下水溝、井戸水、マンホールが吹き上げてくると避難準備を開始する。（家財道具については、タカを利用し二階に移動させる。）	由良川堤防決壊を警戒する基準となる。	「言い伝え」としての口伝情報のみ
262013-2	京都府	福知山市	「流れ変え 蛇ヶ端藪に大樹立ち」	蛇ヶ端は市街地の東部、由良川と支流土師川との合流点付近に位置する。明智光秀が福知山城を築く時、この付近から鑄物師町にかけて1km以上の大堤防を築造し、今のように流れを北に曲げたと云われている。この藪は洪水時の由良川の水の勢いを弱めるために役立っている。当時、福知山藩管理の保安林であった。	「言い伝え」としての口伝情報のみ
272302-1	大阪府	交野市	地震の時は、竹やぶに逃げろ。	竹藪は倒れるものがなく、根が強く張っているので安全	「言い伝え」としての口伝情報のみ
281000-1	兵庫県	神戸市	「常に備えよ」	阪神大水害（昭和13年7月5日）の洪水による教訓	甲南小学校（神戸市東灘区正門付近の平生金八三郎の碑
281000-2	兵庫県	神戸市	「慈明寺流れ」と呼ばれる伝説	1504年の水害にて観音林の禅寺が流失したため。	東灘歴史散歩より
282049-1	兵庫県	西宮市	海亀が浜の高いところに産卵すると、間もなく高波がくる。	海亀の敏感さと海面異変の関係	市内鳴尾地区元漁業従事者からの聞き取り
282049-2	兵庫県	西宮市	曇一曇大の海亀が陸に上がると海が荒れる。	海亀の異常行動と海の天候との関係	市内鳴尾地区神社に残る伝承
282090-1	兵庫県	豊岡市	カメムシの多い年は大雪になる		「言い伝え」としての口伝情報
282-1	兵庫県		1965年タンクローリー横転事故でLPGガスが漏れ、爆発が起きた経験より、LPG漏れの恐ろしさが一部に伝わっていた。		神戸新聞（H17.1.30夕刊）
282120-1	兵庫県	赤穂市	はったい粉（いり粉）さえあれば、三日は食いつなぐ	災害後の非常食についての知識。	兵庫県赤穂市教育委員会：赤穂の民俗その八千種川流域編一、1989、p.303

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
313-1	鳥取県		地震の時は、竹やぶに逃げろ。	竹藪は、根が強く張っているため地割れがこないため安全	「言い伝え」としての口伝情報のみ
313-2	鳥取県		洪水のとき濁流の音が静かになれば、堤防が決壊する。	流水が飽和状態となり、堤防等に対する摩擦音がなくなるため	「言い伝え」としての口伝情報のみ
313-3	鳥取県		棟の餅を焼くと火事になる	新築の建物の平安無事を願うため、祝儀のためのものだが故に、火災につながることを戒める。	言い伝え・古事
313-4	鳥取県		大雪は豊年のしるし	大雪の年は夏になても水不足が無く、害虫も越冬せず寒さで死ぬので豊年だといわれた。	言い伝え・古事。現在は死語。
313-5	鳥取県		火事は家だけ、水害は屋敷ごめ	水害は時として屋敷、田畑まで流す。災害にあったときの慰めや、防災の備えを喚起した。	言い伝え
313-6	鳥取県		セキレイを殺すと火事がいく	益鳥のセキレイを守るための戒めの俗説	言い伝え
313-7	鳥取県		蜂が高いところに巣を作る年は台風が少ない。	蜂は大集団で生まれながらに決められた役割があり、音、光など、人間には予知できない感覚器を備えている。	言い伝え
314013-1	鳥取県	日南町	蜂が低いところに巣を作る年は大風が吹く。（台風が多い）	台風災害への警戒を促す前兆現象を示唆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ
314013-2	鳥取県	日南町	ナカトの実が沢山付く年は大雪	大雪災害への警戒を促す前兆現象を示唆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ
314013-3	鳥取県	日南町	トンビが低いところを飛ばば雨	雨への警戒を促す前兆現象を示唆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ
332038-1	岡山県	津山市	風枕ができれば広戸風が吹く。	風が吹く前には山の南斜面に枕のような雲が東西に発達する。	勝北町誌
336238-1	岡山県	奈義町	奈義町ホームページを参照 http://www.town.nagi.okayama.jp/ →奈義町・津山市広域情報→安全なくらし→気象情報→広戸風情報		
336238-2	岡山県	奈義町	添付資料2-1の通り		広戸風総合調査報告 昭和31年11月1日 大阪管区気象台
341-1	広島県		猿、鳥荒れて、犬ぬくし	申年、鳥年は気象災害が多く、犬年は平穏	古老の「言い伝え」としての口伝情報のみ
341-2	広島県		蜂の巣の位置が低いと大風が吹く。大雨が降る。	台風等の風が強く吹く年には、蜂は巣を低い位置へ設ける。	古老の「言い伝え」としての口伝情報のみ
343684-1	広島県	安芸太田町	水の増水を注意して見ている、一瞬ピタッと止まる。これは山津波の前兆である。多い水が少なくなると避難せよ。	土石流の予兆現象1	添付資料2「山津波から命を守るために-63.7豪雨災害」広島・加計ライオンズクラブ発行
343684-2	広島県	安芸太田町	雨水が1本の線のように軒を落ちる時は、水害のあることを予知せねばならない。大雨の時は谷水に注意せよ。	危険な大雨の降り方の程度を表す。	添付資料2「山津波から命を守るために-63.7豪雨災害」広島・加計ライオンズクラブ発行

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
343684-3	広島県	安芸太田町	「草のにおい、石のゴロゴロ流れる音は一寸降ると起こるし、小さい材木も流れて来る」木の根のにおいがしたら逃げよ。「臭い腐葉土の臭いがすれば逃げろ」	土石流の予兆現象2	添付資料2「山津波から命を守るためにー63.7豪雨災害」広島・加計ライオンズクラブ発行
343684-4	広島県	安芸太田町	何百年も前に山津波が出て、「権現さん巨石」はその時のものである。蛇の谷の地名は過去の重なる災害によりつけられた。	地域の災害履歴の伝承。	添付資料2「山津波から命を守るためにー63.7豪雨災害」広島・加計ライオンズクラブ発行
343684-5	広島県	安芸太田町	「水路に木を植えな（植えるな）」	自然災害を防止するための知恵	添付資料2「山津波から命を守るためにー63.7豪雨災害」広島・加計ライオンズクラブ発行
345458-1	広島県	神石高原町	鏡餅の割れ多ければ豊作	天気や災害を予知することわざ（一月）	三和町史より
345458-10	広島県	神石高原町	降り入り八専、照り八専	天気や災害を予知することわざ（三月）	三和町史より
345458-11	広島県	神石高原町	一、二月降雪なければ晩霜多し	天気や災害を予知することわざ（三月）	三和町史より
345458-12	広島県	神石高原町	朝霧は晴れ	天気や災害を予知することわざ（三月）	三和町史より
345458-13	広島県	神石高原町	朝曇の夜晴れ	天気や災害を予知することわざ（三月）	三和町史より
345458-14	広島県	神石高原町	ヒバリが高く昇ると晴れ	天気や災害を予知することわざ（三月）	三和町史より
345458-15	広島県	神石高原町	彼岸太郎、八専次郎、土曜三郎、寒四郎	天気や災害を予知することわざ（三月）	三和町史より
345458-16	広島県	神石高原町	彼岸すぎでの麦の肥	天気や災害を予知することわざ（三月）	三和町史より
345458-17	広島県	神石高原町	ツバメが低く飛ばば雨	天気や災害を予知することわざ（四月）	三和町史より
345458-18	広島県	神石高原町	朝曇りは晴れ	天気や災害を予知することわざ（四月）	三和町史より
345458-19	広島県	神石高原町	夕焼けは晴れ	天気や災害を予知することわざ（四月）	三和町史より
345458-2	広島県	神石高原町	冬北風強ければ雪となる	天気や災害を予知することわざ（一月）	三和町史より
345458-20	広島県	神石高原町	月がかさをかぶると雨	天気や災害を予知することわざ（四月）	三和町史より
345458-21	広島県	神石高原町	さば雲は雨	天気や災害を予知することわざ（四月）	三和町史より
345458-22	広島県	神石高原町	女心と四月の空	天気や災害を予知することわざ（四月）	三和町史より
345458-23	広島県	神石高原町	夜空がすんだ朝は大霜	天気や災害を予知することわざ（四月）	三和町史より
345458-24	広島県	神石高原町	甲子雨は長雨	天気や災害を予知することわざ（五月）	三和町史より
345458-25	広島県	神石高原町	月のかさ大きいほど雨近し	天気や災害を予知することわざ（五月）	三和町史より
345458-26	広島県	神石高原町	朝雨は女の腕まくり	天気や災害を予知することわざ（五月）	三和町史より

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府 県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
345458-27	広島県	神石高原町	五月に天気よければ干ばつ	天気や災害を予知すること わざ（五月）	三和町史より
345458-28	広島県	神石高原町	ホテルが家の中にまいこむ年は災害多し	天気や災害を予知すること わざ（五月）	三和町史より
345458-29	広島県	神石高原町	大仙祭りのくそ流し	天気や災害を予知すること わざ（五月）	三和町史より
345458-3	広島県	神石高原町	寒に雨なければ夏日照り	天気や災害を予知すること わざ（一月）	三和町史より
345458-30	広島県	神石高原町	日柿水栗	天気や災害を予知すること わざ（五月）	三和町史より
345458-31	広島県	神石高原町	梅雨の初め雷あれば空梅雨となる	天気や災害を予知すること わざ（六月）	三和町史より
345458-32	広島県	神石高原町	梅雨に夕立雲が出れば日照り	天気や災害を予知すること わざ（六月）	三和町史より
345458-33	広島県	神石高原町	梅雨中の雷はつゆ晴れ近し	天気や災害を予知すること わざ（六月）	三和町史より
345458-34	広島県	神石高原町	半夏生の大雨	天気や災害を予知すること わざ（七月）	三和町史より
345458-35	広島県	神石高原町	星がチラチラすると雨	天気や災害を予知すること わざ（七月）	三和町史より
345458-36	広島県	神石高原町	朝曇り晴れ	天気や災害を予知すること わざ（七月）	三和町史より
345458-37	広島県	神石高原町	ニワトリが晩遅くまで餌をさがすと雨	天気や災害を予知すること わざ（七月）	三和町史より
345458-38	広島県	神石高原町	夏の入道雲は晴れ	天気や災害を予知すること わざ（八月）	三和町史より
345458-39	広島県	神石高原町	流れ星多ければ日照りがつづく	天気や災害を予知すること わざ（八月）	三和町史より
345458-4	広島県	神石高原町	寒の雨一粒はつゆの千粒	天気や災害を予知すること わざ（一月）	三和町史より
345458-40	広島県	神石高原町	土用の三郎四郎照れば豊作	天気や災害を予知すること わざ（八月）	三和町史より
345458-41	広島県	神石高原町	三日月が上向いたら雨が多い	天気や災害を予知すること わざ（八月）	三和町史より
345458-42	広島県	神石高原町	ハチが巣を低いところにつくると台風が多い	天気や災害を予知すること わざ（八月）	三和町史より
345458-43	広島県	神石高原町	福塩線を通る汽車の気笛がきこえると雨が近い	天気や災害を予知すること わざ（八月）	三和町史より
345458-44	広島県	神石高原町	ソバの花がよく咲くと大雪	天気や災害を予知すること わざ（八月）	三和町史より
345458-45	広島県	神石高原町	夜つゆ多ければ晴れ	天気や災害を予知すること わざ（九月）	三和町史より
345458-46	広島県	神石高原町	暑さ寒さも彼岸まで	天気や災害を予知すること わざ（九月）	三和町史より
345458-47	広島県	神石高原町	秋の夕焼け鎌をとげ	天気や災害を予知すること わざ（十月）	三和町史より
345458-48	広島県	神石高原町	男心と秋の空	天気や災害を予知すること わざ（十月）	三和町史より
345458-49	広島県	神石高原町	秋の日はつるべ落とし	天気や災害を予知すること わざ（十月）	三和町史より
345458-5	広島県	神石高原町	寒が暖かいと凶作	天気や災害を予知すること わざ（一月）	三和町史より

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
345458-50	広島県	神石高原町	カキの葉の早落ちは早霜の兆し	天気や災害を予知することわざ（十月）	三和町史より
345458-51	広島県	神石高原町	秋風と夫婦げんかは日が入るとやむ	天気や災害を予知することわざ（十一月）	三和町史より
345458-52	広島県	神石高原町	ソバの豊作は大雪	天気や災害を予知することわざ（十一月）	三和町史より
345458-53	広島県	神石高原町	紅葉美しければ霜早い	天気や災害を予知することわざ（十一月）	三和町史より
345458-54	広島県	神石高原町	ウシが丸くなって寝ていると天気が悪くなる	天気や災害を予知することわざ（十二月）	三和町史より
345458-55	広島県	神石高原町	霜の多い朝は晴れ	天気や災害を予知することわざ（十二月）	三和町史より
345458-6	広島県	神石高原町	雪少なければ干害になる	天気や災害を予知することわざ（二月）	三和町史より
345458-7	広島県	神石高原町	雪の降らない年は水不足	天気や災害を予知することわざ（二月）	三和町史より
345458-8	広島県	神石高原町	トビが低く飛べば雨、高く飛べば晴れ	天気や災害を予知することわざ（二月）	三和町史より
345458-9	広島県	神石高原町	高い山が見えれば晴れ	天気や災害を予知することわざ（二月）	三和町史より
351-1	山口県		朝虹にや、川を渡るな。夕虹にや、港出すな。	朝の虹は大雨の前兆だから川を渡るな。夕方の虹は時化の前兆だから出港するなという意味。	「下関市史・民俗編」
351-2	山口県		五日二十日は真昼が湛え。	旧暦の五日と二十日は、ほぼ正午が満潮。	山口県東部の口伝
351-3	山口県		五月の夕立はみとを落とせ。	5月の雨は大雨になることが多いので、みと（田んぼのあぜの切れたところ）を切って湛水被害を防止する。	山口市と周辺地域の口伝
351-4	山口県		鳳翻（ほうべん）おろしに藁を敷け。	晩秋から初冬にかけて日本海を越えてきた季節風は、山口盆地の北方にある標高743mの東鳳翻山を山越えして、冷たい季節風となって山口市郊外の一の坂川沿いに吹き下ろす。これを「鳳翻おろし」という。冬野菜の栽培に取り組んでいる農家に、「鳳翻おろしが吹いたら、野菜に藁を敷くなどして防霜対策を急ぎなさい。」ということわざ。	山口市一の坂川沿いのことわざ
352047-1	山口県	萩市	五月の夕焼け水戸をはずせ	春の夕焼けが悪天の兆しである理由はわからないが、雲が異常に赤黒く彩りする場合は、台風などの激しい気象攪乱が近づいているときにしばしば現れる。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-2	山口県	萩市	梅雨の夕焼けは雨になる	春の夕焼けが悪天の兆しである理由はわからないが、雲が異常に赤黒く彩りする場合は、台風などの激しい気象攪乱が近づいているときにしばしば現れる。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府 県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
352047-3	山口県	萩市	五月の夕焼けは雨になる	春の夕焼けが悪天の兆しである理由はわからないが、雲が異常に赤黒く彩りする場合は、台風などの激しい気象攪乱が近づいているときにしばしば現れる。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-4	山口県	萩市	梅雨の夕焼け苗をとれ(雨天)	春の夕焼けが悪天の兆しである理由はわからないが、雲が異常に赤黒く彩りする場合は、台風などの激しい気象攪乱が近づいているときにしばしば現れる。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-5	山口県	萩市	春夕焼けが濃いと嵐	春の夕焼けが悪天の兆しである理由はわからないが、雲が異常に赤黒く彩りする場合は、台風などの激しい気象攪乱が近づいているときにしばしば現れる。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-6	山口県	萩市	夏の夕焼けは雨	春の夕焼けが悪天の兆しである理由はわからないが、雲が異常に赤黒く彩りする場合は、台風などの激しい気象攪乱が近づいているときにしばしば現れる。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-7	山口県	萩市	夏の夕焼け井出をはね	春の夕焼けが悪天の兆しである理由はわからないが、雲が異常に赤黒く彩りする場合は、台風などの激しい気象攪乱が近づいているときにしばしば現れる。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-8	山口県	萩市	紫がかった夕焼けの模様が変わると雨が降る	台風が接近しているときなどの異様な「黒夕焼け」で天気の崩れが大きい	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-9	山口県	萩市	夕焼けがあると天気になり、朝焼けの時は雨が降る	朝焼けがしているときは、西のほうはむしろ異常な雲が出ていることが多いので、やがてその雨雲がこちらに移って雨を降らせる。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-10	山口県	萩市	秋の朝焼け蓑笠用意	朝焼けがしているときは、西のほうはむしろ異常な雲が出ていることが多いので、やがてその雨雲がこちらに移って雨を降らせる。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-11	山口県	萩市	朝焼けがしたら雨になる	朝焼けがしているときは、西のほうはむしろ異常な雲が出ていることが多いので、やがてその雨雲がこちらに移って雨を降らせる。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-12	山口県	萩市	西がつかえる（雲で）と雨が降る	西の空が暗いのは低気圧が接近していることを示し、低気圧に吹き込む南風と雨が強くなる。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-13	山口県	萩市	日の入りに暗むと、雨と南寄りの風が強くなる	西の空が暗いのは低気圧が接近していることを示し、低気圧に吹き込む南風と雨が強くなる。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
352047-14	山口県	萩市	山が近く見えるのは雨の前兆	遠くの山が近くに見えるのは、空気が非常に澄んで、見通しがよいからである。見通しがよいのは地上付近で乱流が起こっていて、塵や水蒸気がどんどん上空に運ばれていることを意味する。これは、低気圧の前面に起こる現象だから風雨の兆しとなる。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-15	山口県	萩市	春、遠くの景色（南西方の山々）がよく見えると嵐	遠くの山が近くに見えるのは、空気が非常に澄んで、見通しがよいからである。見通しがよいのは地上付近で乱流が起こっていて、塵や水蒸気がどんどん上空に運ばれていることを意味する。これは、低気圧の前面に起こる現象だから風雨の兆しとなる。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-16	山口県	萩市	見島が見えると雨が近い	遠くの山が近くに見えるのは、空気が非常に澄んで、見通しがよいからである。見通しがよいのは地上付近で乱流が起こっていて、塵や水蒸気がどんどん上空に運ばれていることを意味する。これは、低気圧の前面に起こる現象だから風雨の兆しとなる。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-17	山口県	萩市	かわきがあつたら南の風	低気圧が日本海を通ったり、台風が接近したりするとき、日中に中国山地を越えてくる南の気流で高温低湿となるフェーン現象が生じる。2月から8月ごろまでに多い。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-18	山口県	萩市	庭が湿ると北風が吹く	霜が降りて、地面が湿る日は、昼間に海からの北風となる（萩市は海陸風が顕著に現れる）。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-19	山口県	萩市	大霜があると雨が降る（霜がえし）	露や霜が多くおりた朝は、夜移動性高気圧に覆われていて、後から概ね気圧の谷が近づいており、こと春秋の頃は天気変化が割合規則正しいから雨になる可能性が大きい	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-20	山口県	萩市	霜が下り日が照らないうちに早く消えると雨が降る	露や霜が多くおりた朝は、夜移動性高気圧に覆われていて、後から概ね気圧の谷が近づいており、こと春秋の頃は天気変化が割合規則正しいから雨になる可能性が大きい	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-21	山口県	萩市	まじ（南西の海風）が吹けば雨になる	低気圧が北方を東進するとともに、寒冷前線が南下し接近してくる。これに向けてまじが吹き込んで、前線の通過するときには雨。その直後風向は急変し、北西ないし北の風が強まって引き続いて吹き、気温が下降する。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
352047-22	山口県	萩市	北の風は夕方おちる	この北の風は海風のことで、通常この地方は夜間は南の陸風、昼間は北の海風となり、その風向の交替時は朝なぎ、夕なぎとなる。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-23	山口県	萩市	北風は天気となり南風は雨となる	低気圧が西方にあって南風が吹き込み、天気は低気圧の接近にしたがって下り坂となる	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-24	山口県	萩市	南風が吹いたら雨が降る	低気圧が西方にあって南風が吹き込み、天気は低気圧の接近にしたがって下り坂となる	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～10（添付資料2-1）
352047-25	山口県	萩市	北ゴチの風が吹いたら沖にいと危ない	快適な空が急変して、陰鬱な雲がたれこめ、北東の冷たい気流が吹き寄せることがある。日本の北方に高気圧があるため、北高型または北東気流型といい、海上はしけるので船舶は注意が必要である。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-26	山口県	萩市	裏の山の孟宗竹が揺れると（南東風が吹くと）雨が降る	南よりの風は低気圧や台風の前面で吹くから、天気も悪く雨量も多い。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-27	山口県	萩市	つばめが低いときは雨になる		萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-28	山口県	萩市	朝からとびは隣へ行くな		萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-29	山口県	萩市	朝からとびは隣へ行くとき傘を持って		萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-30	山口県	萩市	雨蛙が急に泣き出すと雨になる	青蛙は皮膚が薄いため、湿度や温度・気圧等に敏感であって、天気の変る兆候をいち早く捉えて鳴くと言われる。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-31	山口県	萩市	青蛙が鳴くと雨が降る	青蛙は皮膚が薄いため、湿度や温度・気圧等に敏感であって、天気の変る兆候をいち早く捉えて鳴くと言われる。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）
352047-32	山口県	萩市	月（日）が傘をかぶっていると雨が降る	低気圧や温暖前線が近づいてくると、絹雲が西の空から広がり、次いでベール状の絹層雲になる。この雲は地上から8000mくらいの高さにあり、氷の結晶の集まりである。傘が出て雨が降り出すまでには10ないし20時間くらいかかる。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行） P98～105（添付資料2-1）

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
352047-33	山口県	萩市	月に雨がさ、日に日がさ	低気圧や温暖前線が近づいてくると、絹雲が西の空から広がり、次いでペール状の絹層雲になる。この雲は地上から8000mくらいの高さにあり、氷の結晶の集まりである。傘が出て雨が降り出すまでには10ないし20時間くらいかかる。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行）P98～105（添付資料2-1）
352047-34	山口県	萩市	月が見えなくなると、南よりの風から北西の風が強くなる	西の方から低気圧が近づいて低い雲が広がる。そこに南風が吹き込み、寒冷前線が通過し、その後は北西の風が強くなる。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行）P98～105（添付資料2-1）
352047-35	山口県	萩市	夏、西はやて（雷雨）は寝ないで待つ（しばらく待つ）	夏の雷は熱雷といわれるもので、割合に速い速度で西から移動してくる一過性のもので、天気のリcoveryが早い。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行）P98～105（添付資料2-1）
352047-36	山口県	萩市	夏北はやて（雷雨）は港へ入る	北方から移動してくる雷雨は、寒冷前線上に発生する界雷で、これは通り過ぎるまでに割合に時間がかかることがあり、前線の通過した後は北西の風が強まるので、船は港に入ったほうがよい。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行）P98～105（添付資料2-1）
352047-37	山口県	萩市	冬のイナビカリは一つ当たっても帰れ	寒冷前線が通過するときに、こうした鳴り方の雷が多い。突然鳴ってきて長続きせず、そのあと突風や強い北西風の吹き出しがある。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行）P98～105（添付資料2-1）
352047-38	山口県	萩市	一つ雷が鳴ったら油断するな（大風のもと）	寒冷前線が通過するときに、こうした鳴り方の雷が多い。突然鳴ってきて長続きせず、そのあと突風や強い北西風の吹き出しがある。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行）P98～105（添付資料2-1）
352047-39	山口県	萩市	一つ雷は大雪のもと（三月初め虫起こしという）	寒冷前線が通過するときに、こうした鳴り方の雷が多い。突然鳴ってきて長続きせず、そのあと突風や強い北西風の吹き出しがある。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行）P98～105（添付資料2-1）
352047-40	山口県	萩市	三、四日ふすった（黄砂）ら、必ず雨で東寄りの風が吹く	黄砂は多く早春に現れる現象である。このころは、三、四日の周期で天気に変化し、大陸奥地の黄砂が強い北西風によって飛来した後、西方から低気圧が近づいて、東ないし南の風が強まって雨となる。「春近し」を予告するもの。	萩市史 第3巻（昭和62年3月10日発行）P98～105（添付資料2-1）
352047-41	山口県	萩市	家の中に鼠がいなくなると火事になる前兆		川上村誌（昭和39年10月20日発行）P398～404（添付資料2-1）
352047-42	山口県	萩市	硯を洗うと雨が降る		川上村誌（昭和39年10月20日発行）P398～404（添付資料2-1）

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府 県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
352047-43	山口県	萩市	坎日に牛馬を使うと火事になる		川上村誌（昭和39年10月20日発行）P398～404（添付資料2-1）
352047-44	山口県	萩市	巳や牛の日に糯を植えたり、餅を搗いたりすると火事になる		川上村誌（昭和39年10月20日発行）P398～404（添付資料2-1）
352047-45	山口県	萩市	鳥の巣が低い年は大風がある		川上村誌（昭和39年10月20日発行）P398～404（添付資料2-1）
352047-46	山口県	萩市	鳥が騒げば大雪が降る		川上村誌（昭和39年10月20日発行）P398～404（添付資料2-1）
352047-47	山口県	萩市	午前鶯が飛べば雨となり、午後飛べば日和となる		川上村誌（昭和39年10月20日発行）P398～404（添付資料2-1）
352047-48	山口県	萩市	魚が水面でおどれば雨が近い		川上村誌（昭和39年10月20日発行）P398～404（添付資料2-1）
352047-49	山口県	萩市	蜂が高く巣をつくる年は大水、低いと大風		川上村誌（昭和39年10月20日発行）P398～404（添付資料2-1）
352047-50	山口県	萩市	蚊柱の立つ年は風が強い		川上村誌（昭和39年10月20日発行）P398～404（添付資料2-1）
352047-51	山口県	萩市	猫が鼻を上に向けて寝ると雨が近い		川上村誌（昭和39年10月20日発行）P398～404（添付資料2-1）
352047-52	山口県	萩市	鶏がこやに遅くまで入らないと翌日はキット雨		川上村誌（昭和39年10月20日発行）P398～404（添付資料2-1）
352047-53	山口県	萩市	月に暈がかかると雨		川上村誌（昭和39年10月20日発行）P398～404（添付資料2-1）
352047-54	山口県	萩市	日に暈がかかっても雨		川上村誌（昭和39年10月20日発行）P398～404（添付資料2-1）
352047-55	山口県	萩市	朝虹がかかると雨		川上村誌（昭和39年10月20日発行）P398～404（添付資料2-1）
352047-56	山口県	萩市	虹が川をわたってかかると雨		川上村誌（昭和39年10月20日発行）P398～404（添付資料2-1）
352047-57	山口県	萩市	鍋・釜のへぐり（鍋ずみのこと）に火がつくと雨		川上村誌（昭和39年10月20日発行）P398～404（添付資料2-1）
352047-58	山口県	萩市	北風は天気、南風が吹けば雨となる		川上村誌（昭和39年10月20日発行）P398～404（添付資料2-1）

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
352047-59	山口県	萩市	朝焼けがすると雨が近い		川上村誌（昭和39年10月20日発行）P398～404（添付資料2-1）
352047-60	山口県	萩市	雨蛙が急に鳴き出すと雨になる		川上村誌（昭和39年10月20日発行）P398～404（添付資料2-1）
352047-61	山口県	萩市	雨降りをはめると長雨になる		川上村誌（昭和39年10月20日発行）P398～404（添付資料2-1）
352047-62	山口県	萩市	霜が早く消えたら雨が近い		川上村誌（昭和39年10月20日発行）P398～404（添付資料2-1）
352047-63	山口県	萩市	雨降りをはめると長雨となる		福栄村史（昭和41年5月31日発行）P571
352047-64	山口県	萩市	猫が朝、顔を洗う（前脚で顔をこする）と日和、鼻を上向けて寝ると雨が近い		福栄村史（昭和41年5月31日発行）P571
352047-65	山口県	萩市	雨蛙が急に鳴き出すと雨になる		福栄村史（昭和41年5月31日発行）P571
352047-66	山口県	萩市	月や日に雲がかかると雨になる		福栄村史（昭和41年5月31日発行）P571
352047-67	山口県	萩市	朝虹がかかると雨になる		福栄村史（昭和41年5月31日発行）P571
352047-68	山口県	萩市	虹が川をわたってかかると雨		福栄村史（昭和41年5月31日発行）P571
352047-69	山口県	萩市	北風は天気で、南風（はえのかぜ）が吹けば雨となる		福栄村史（昭和41年5月31日発行）P571
352047-70	山口県	萩市	朝焼けがすると雨		福栄村史（昭和41年5月31日発行）P571
352047-71	山口県	萩市	大井駅の汽笛が聞こえると雨が近い		福栄村史（昭和41年5月31日発行）P571
352047-72	山口県	萩市	霜が早く消えると雨（霜返し）		福栄村史（昭和41年5月31日発行）P571
352047-73	山口県	萩市	へぐり鍋墨に火がつくと雨		福栄村史（昭和41年5月31日発行）P571
353-1	山口県		午前鳶が飛ばば雨が降り午後飛ばば日和となる	天候の変化	防長民俗叢書1 防長の迷信
353-10	山口県		女郎蜘蛛が低く巣を張ると大風がある	大風予兆	防長民俗叢書1 防長の迷信
353-11	山口県		蜚が家の中に入ってすすをなめると大水が出てその家はおし流される	災害予兆	防長民俗叢書1 防長の迷信
353-2	山口県		ふくろうが朝鳴くと晴、夕方に鳴くと雨になる	天候の変化	防長民俗叢書1 防長の迷信
353-3	山口県		鶏の宵鳴きは近くに火事が起こる	火事予兆	防長民俗叢書1 防長の迷信
353-4	山口県		鳥の巣が低い年は大風がある	大風予兆	防長民俗叢書1 防長の迷信
353-5	山口県		お月様が傘をさしているときその傘の中に星が一つあれば一日すると雨、二つあれば二日、三つあれば三日すると雨が降る	天候の変化	防長民俗叢書1 防長の迷信
353-6	山口県		お月様が傘をさしていると翌日はお天気である又反対に言う者もある	天候の変化	防長民俗叢書1 防長の迷信

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
353-7	山口県		朝虹がかかると必ず雨になる	雨予兆	防長民俗叢書 1 防長の迷信
353-8	山口県		夜明けの星がキラキラするのは雨の兆	雨予兆	防長民俗叢書 1 防長の迷信
353-9	山口県		小蟹が道に多く上がってくると大雨になる	大雨予兆	防長民俗叢書 1 防長の迷信
361-1	徳島県		「大きい地震の後に井戸水がひけば、津波が来る」	津波への警戒を促す前兆現象を示唆	「言い伝え」としての口伝情報のみ
362034-1	徳島県	小松島市	地震があると、天候が変わる。	不明	小松島市 風土記 P. 247
362034-2	徳島県	小松島市	地震があると、天気が定まる。	不明	小松島市 風土記 P. 247
362034-3	徳島県	小松島市	朝十時に地震があると晴となり、五時頃だとあめとなる。	不明	小松島市 風土記 P. 247
362034-4	徳島県	小松島市	静かで蒸し暑いと地震がある。	不明	小松島市 風土記 P. 247
362034-5	徳島県	小松島市	トンボが群がってたくさん飛んでいると大風になる。	不明	小松島市 風土記 P. 247
362034-6	徳島県	小松島市	朱虹がたつと台風が起こる。	不明	小松島市 風土記 P. 247
362034-7	徳島県	小松島市	日陰に蜂が多い時は大風が吹く。	不明	小松島市 風土記 P. 247
363-1	徳島県		地震が発生したら家の玄関の戸を開けておく。	津波等の避難のため	「言い伝え」としての口伝
363-2	徳島県		地震が発生して津波警報があれば、川沿い、又は橋を渡って逃げてはいけない。	津波は川を昇るので危険	「言い伝え」としての口伝
363-3	徳島県		地震が発生して津波警報があれば、路地づたいに逃げてはいけない。	家屋の瓦や塀等の倒壊のため避難出来なくなるため	「言い伝え」としての口伝
363847-1	徳島県	海南町	南海地震津波の最高潮位標識を見よ。それより高い津波もあることに注意せよ。	昭和の南海地震より大きな地震が来ていることを自覚すること	南海道地震津波史碑 (津波十訓)
363847-10	徳島県	海南町	沖で地震を感じたら、直ちに湾外の深いところへ船を移動せよ。湾内では、直ちに下船し緊急避難せよ。	津波による被害から逃れるための教訓	南海道地震津波史碑 (津波十訓)
363847-2	徳島県	海南町	非常時の最小限の持出品の準備を日頃よりおこたるな。	いつ起こるかかわからない南海地震に備えて常日頃から準備しておく	南海道地震津波史碑 (津波十訓)
363847-3	徳島県	海南町	わが家の緊急時の避難道、避難場所を日頃より定めておけ。	いつ起こるかかわからない南海地震に備えて常日頃から準備しておく	南海道地震津波史碑 (津波十訓)
363847-4	徳島県	海南町	携帯ラジオ等を常備し、停電時でも正確な情報を知れ。デマにまどわされるな。	万が一、情報伝達が寸断された場合に備え、個人でできることは個人です(携帯ラジオ等常備する)。	南海道地震津波史碑 (津波十訓)
363847-5	徳島県	海南町	真剣に防災訓練に参加せよ。日頃の訓練、それが緊急時にわが身を救うと心得よ。	日頃から訓練に参加していると、いざという時に自然と行動できる。	南海道地震津波史碑 (津波十訓)
363847-6	徳島県	海南町	「津波警報」ができれば、直ちに近くの高い所に避難せよ。もし、津波が来なかったら、幸いと思え。	津波による被害から逃れるための教訓	南海道地震津波史碑 (津波十訓)
363847-7	徳島県	海南町	大地震のあと、津波が来襲すると思え。津波の来襲前に海水は必ずひくとは限らない。	津波による被害から逃れるための教訓	南海道地震津波史碑 (津波十訓)
363847-8	徳島県	海南町	大地震のあと、車で防潮堤外の埋立地に入るな。門扉が閉じられ、車も命もなくすことがあることを知れ。	津波による被害から逃れるための教訓	南海道地震津波史碑 (津波十訓)

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
363847-9	徳島県	海南町	津波は、必ず数回やってくる。避難後、警報が解除されるまで避難所で待機せよ。命より大切なものはない。	津波による被害から逃れるための教訓	南海道地震津波史碑（津波十訓）
363863-1	徳島県	宍喰町	するめが多くとれた時は、地震に気をつける	昭和南海の時そうだった。	
373222-1	香川県	土庄町	山つなみの時は一番先にネズミがにげる。それを見たら、大急ぎで避難する。	土砂災害への警戒を促す前兆現象を示唆	「言い伝え」として口伝情報のみ
373222-2	香川県	土庄町	九は病 五七は雨に 四っ日照り 六っ八っなれば、いつも大風 五七が雨で八っひでり	九っ時の地震は悪病流行 五っ時と七っ時の地震は長雨 四っ時の地震は日照り つづき 六っ時と八っ時の地震は大風の前兆	「言い伝え」として口伝情報のみ
373222-3	香川県	土庄町	トンビに遠歩きすな	朝トンビが舞う時は、低気圧が近づいた時で雨が近い。傘を持たないで、遠くの方へ行かないようにするがよい。	「言い伝え」として口伝情報のみ
373222-4	香川県	土庄町	朝焼けはその日の洪水 朝焼けは蓑ひねれ 朝ニッコリはあと悪し	朝焼けは移動性高気圧が通っている時である。そのあとすぐ、低気圧が通るので雨になる。「蓑ひねれ」は雨が降るから、蓑を用意せよ。	「言い伝え」として口伝情報のみ
373222-5	香川県	土庄町	二っ八とんぼ風	二月は突発的な季節風が最も強く、八月には台風がある。だから船旅はこの季節にはさけた方がよい。	「言い伝え」として口伝情報のみ
385069-1	愛媛県	愛南町	災害前になったら家の中のねずみが姿を消す。	災害発生に対する注意喚起	「言い伝え」としての口伝情報のみ
392014-1	高知県	高知市	「打越」昔は浦戸から南浦というところに行くためには、東坂、中坂、西坂という三つの坂のどれかを越えなければならず、そのうちの中坂は、たいした高さの坂でもなかったがそれでも、どの家の屋根よりも高く、その坂の峠に立つと、内海と外海との両方が見渡せ近くの漁師たちは、天気具合をここで見立てていた。昔からこの場所は「打越（うちこし）」と呼ばれており、その由来は大昔に大地震が起きた際に、津波が押し寄せ、この中坂の峠を打ち越したもので「打越」というようになったと伝わっている。その地震の中でも一番大きな地震は、白鳳時代のことで、南浦の宇賀神社に祀られている宇賀の長者さんの広い屋敷や土地がいつべんに消えてしまったとか、西南浦から甲殿の沖の方にあったとされる黒田郷という広い村々が、海底に沈んでしまったということ等や安政の地震の時も大きな津波がやってきたものと伝わっている。浦戸の人たちは、中坂を波が越したというと、何はさておいて死にものぐるいで裏山にかけ上がって逃げたものだとされ、昔から浦戸では「地震がおきたら山の竹藪に逃げろ」と伝わってきている。	何はともあれ高く地盤の丈夫なところへ早く逃げる。	発行者：浦戸小学校 P T A 著者：堀内佳郎先生 発行日：平成二年三月三日 「浦戸昔ばなし」より
392022-1	高知県	室戸市	地震の前に井戸が枯れたり、濁ったりした。	予備知識	「言い伝え」としての口伝情報のみ
392065-1	高知県	須崎市	地震があったら、井戸の水を見る。	かれていたら、津波が来る。	「言い伝え」としての口伝情報のみ

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
392065-2	高知県	須崎市	潮が引いたら津波が来る。	大きな引潮は、津波の前兆。	「言い伝え」としての口伝情報のみ
392103-1	高知県	四万十市	荷揚げは飲料水、食料品、炊事用具を第一としなければならぬ。	洪水時の注意	私たちの郷土 中村市（地誌編） 中村市社会教育研究同好会 編著
392103-10	高知県	四万十市	根太は釘で打ちつけておくこと。水が座上一尺にもなると浮かび出てきて、動作に不便である。	洪水時の注意	私たちの郷土 中村市（地誌編） 中村市社会教育研究同好会 編著
392103-11	高知県	四万十市	便所には蓋をし、重い石を置いて、汚物の流出を防ぐこと。便壺の中一面に新聞紙をひろげてしけば一層効果がある。	洪水時の注意	私たちの郷土 中村市（地誌編） 中村市社会教育研究同好会 編著
392103-12	高知県	四万十市	堀井戸の中にも板をふせ、その上に大きな石をおいて泥土の進入を防ぐこと。	洪水時の注意	私たちの郷土 中村市（地誌編） 中村市社会教育研究同好会 編著
392103-13	高知県	四万十市	風雨の激しいときには、逃げてはならぬ。怪我のもと。	避難の注意	私たちの郷土 中村市（地誌編） 中村市社会教育研究同好会 編著
392103-14	高知県	四万十市	赤土山の下、或いは谷口の家はツイの恐れあり。若し山鳴り雷の如きは必ずツイの前兆と心得て直ちにその場を去ること。	避難の注意	私たちの郷土 中村市（地誌編） 中村市社会教育研究同好会 編著
392103-15	高知県	四万十市	昼でも2、3時間は一人くらいは乗れるもので場合によっては戸板よりもよい。	避難の注意	私たちの郷土 中村市（地誌編） 中村市社会教育研究同好会 編著
392103-16	高知県	四万十市	船に乗る場合は決してあわててはならぬ。又片乗りしてはならぬ。万一転覆してもあわてず船底に取り付いて助けを求めるがよい。	避難の注意	私たちの郷土 中村市（地誌編） 中村市社会教育研究同好会 編著
392103-17	高知県	四万十市	筏はトロの所で使用し、激流のところでは使わないように。	避難の注意	私たちの郷土 中村市（地誌編） 中村市社会教育研究同好会 編著
392103-18	高知県	四万十市	減水と同時にタワシで屋内の泥土を洗い落とすこと。竹箒その他で常に水を動かして泥土のつくのを防ぐこと。	水後の注意	私たちの郷土 中村市（地誌編） 中村市社会教育研究同好会 編著
392103-19	高知県	四万十市	水後には芥洗いといって降雨の続くことが多いので対策に注意を要する。	水後の注意	私たちの郷土 中村市（地誌編） 中村市社会教育研究同好会 編著
392103-2	高知県	四万十市	箆、机等の抽出は、全部引き出しておくこと。浸水したら引き出しに困る。	洪水時の注意	私たちの郷土 中村市（地誌編） 中村市社会教育研究同好会 編著
392103-20	高知県	四万十市	床下は泥土を取り除き乾燥に注意すること。	水後の注意	私たちの郷土 中村市（地誌編） 中村市社会教育研究同好会 編著
392103-21	高知県	四万十市	水後は悪疫流行するものであるから、消毒掃除を入念にし、飲食物に注意すること。	水後の注意	私たちの郷土 中村市（地誌編） 中村市社会教育研究同好会 編著
392103-3	高知県	四万十市	箆、戸棚等の胴は、うつぶせに置くこと。仰向けにすれば中に泥土が積もって、後日洗うに困難する。	洪水時の注意	私たちの郷土 中村市（地誌編） 中村市社会教育研究同好会 編著

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
392103-4	高知県	四万十市	かめ、手水鉢等には、十分水を蓄えておけば浸水しても流れる恐れがない。	洪水時の注意	私たちの郷土 中村市（地誌編） 中村市社会教育研究同好会 編著
392103-5	高知県	四万十市	戸締りを堅くし、戸詰を強くして、家具の流失をふせぐこと。	洪水時の注意	私たちの郷土 中村市（地誌編） 中村市社会教育研究同好会 編著
392103-6	高知県	四万十市	畳は水に浸せば、乾燥しないものであるから、早く荷揚げしなければならぬ。万一浸水したときは、表を外して退水までに流すこと。ぬれ畳は重くて取り除きに困難であり、表は乾燥しやすいので水後の役にたつものである。	洪水時の注意	私たちの郷土 中村市（地誌編） 中村市社会教育研究同好会 編著
392103-7	高知県	四万十市	畳を数枚重ねておく時は、浸水の時重量が激増して根太を折り、家を壊すことあり。	洪水時の注意	私たちの郷土 中村市（地誌編） 中村市社会教育研究同好会 編著
392103-8	高知県	四万十市	障子はそのままに置くのがよい。	洪水時の注意	私たちの郷土 中村市（地誌編） 中村市社会教育研究同好会 編著
392103-9	高知県	四万十市	式板は一々取り外し、一と間分を束ねおくこと。	洪水時の注意	私たちの郷土 中村市（地誌編） 中村市社会教育研究同好会 編著
393011-1	高知県	東洋町	地震がきたら高台へ逃げること	津波による被害から逃れるための教訓	言い伝えとしての口伝え
394017-1	高知県	中土佐町	津波の前には、潮位が引く。	引いた後に、津波がくることの前兆を示唆	「言い伝え」としての口伝情報のみ
394017-2	高知県	中土佐町	地区名が、道の川となっている。	大雨時に、その名のとおり地域を通る道路が冠水して川となっていた。地名になる由来となり、洪水・土砂災害への警戒を示唆	「言い伝え」としての口伝情報のみ
401-1	福岡県		根こぎの流木が多いときは油断できぬ洪水だ。	大雨時における筑後川氾濫への警戒を促す前兆現象を示唆。	福岡県：昭和二十八年六月 福岡縣水害誌（1954）
402-1	福岡県		洪水に遭難した際の心得	浸水してくる時は、なるべく門戸を閉鎖し、器物の流逸を防ぐ（火災の場合と反対）	福岡県八女郡役所『水害誌』1925年、P181～183
402-2	福岡県		洪水に遭難した際の心得	浸水が深い場合は、減水時に家屋の傾斜傾崩等の危険があるため、注意すること	福岡県八女郡役所『水害誌』1925年、P181～183
411-1	佐賀県		黒髪おろしは暴風の兆	別添資料のとおり	『佐賀県の気象と天気のことわざ』 p 39
411-10	佐賀県		雪の日どけは日年、雨どけは雨年	別添資料のとおり	『佐賀県の気象と天気のことわざ』 p 60
411-11	佐賀県		彼岸の霜五月かんばつ	別添資料のとおり	『佐賀県の気象と天気のことわざ』 p 62
411-12	佐賀県		星がキラキラ動くと大風	別添資料のとおり	『佐賀県の気象と天気のことわざ』 p 74
411-13	佐賀県		カラスが高い所に巣をつくると大水	別添資料のとおり	『佐賀県の気象と天気のことわざ』 p 75
411-14	佐賀県		風切りが来れば暴風の兆	別添資料のとおり	『佐賀県の気象と天気のことわざ』 p 76

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
411-15	佐賀県		ヘビの木登り大水	別添資料のとおり	『佐賀県の気象と天気のことわざ』 p 77
411-16	佐賀県		クリ豊年にシイ飢饉	別添資料のとおり	『佐賀県の気象と天気のことわざ』 p 77
411-17	佐賀県		ナシの多く実る年は雨が多く、暴風が多い	別添資料のとおり	『佐賀県の気象と天気のことわざ』 p 78
411-18	佐賀県		トウモロコシの根が地に深く入っている年は大風が吹く	別添資料のとおり	『佐賀県の気象と天気のことわざ』 p 78
411-19	佐賀県		竹が実を結ぶと凶年	別添資料のとおり	『佐賀県の気象と天気のことわざ』 p 78
411-2	佐賀県		九月の東風は大荒れとなる	別添資料のとおり	『佐賀県の気象と天気のことわざ』 p 39
411-20	佐賀県		川デエニ竹植エロ屋敷ウチー柿植エロ	別添資料のとおり	『佐賀の諺』 p 39
411-3	佐賀県		暴風は押し鼻（南東風）と沖南風がひどい	別添資料のとおり	『佐賀県の気象と天気のことわざ』 p 42
411-4	佐賀県		乾ゴミ大風	別添資料のとおり	『佐賀県の気象と天気のことわざ』 p 44
411-5	佐賀県		冬の東風は大雪	別添資料のとおり	『佐賀県の気象と天気のことわざ』 p 44
411-6	佐賀県		旋風（つしもき）が上があれば雨、下れば晴れ	別添資料のとおり	『佐賀県の気象と天気のことわざ』 p 45
411-7	佐賀県		冬のなぎは荒れの兆	別添資料のとおり	『佐賀県の気象と天気のことわざ』 p 46
411-8	佐賀県		夏秋の交に大風あらば洪水の兆	別添資料のとおり	『佐賀県の気象と天気のことわざ』 p 46
411-9	佐賀県		大寒の雪降りその年の大かんぱつ	別添資料のとおり	『佐賀県の気象と天気のことわざ』 p 60
422011-1	長崎県	長崎市	山川河内にて山潮発生、人畜に多数被害有り	一部の山間地において、過去に発生した山崩れによる災害を教訓とした当該地区の言い伝えが7.23長崎大水害時に活かされ、犠牲者を出すことがなかった。 ※山川河内は地名。長崎では昔から山から大量の土砂水が出ることを山潮が出たと表現していたという。	地区の言い伝え
422045-1	長崎県	諫早市	アオメが陸（カ）に上があれば大風（ウカ）が吹く	アオメは船虫。自然の変異を教える小動物。	諫早地方方言集 発行：諫早方言の会（平成12年10月1日）
422045-10	長崎県	諫早市	コシキレバチの（シ）巣が（ノ）低い（ヒッカ）時は大風が（ウカ）吹く	台風の当り年の教え	諫早地方方言集 発行：諫早方言の会（平成12年10月1日）
422045-11	長崎県	諫早市	霜が（シ）おりた時はよい日和（カヒヨイ）		諫早地方方言集 発行：諫早方言の会（平成12年10月1日）
422045-12	長崎県	諫早市	神経痛の痛み（ウスケ）ば雨		諫早地方方言集 発行：諫早方言の会（平成12年10月1日）
422045-13	長崎県	諫早市	蝸が（セリ）飛んだら（ベバ）雨が（シ）降る	蝸は「ぶよ」のこと	諫早地方方言集 発行：諫早方言の会（平成12年10月1日）

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
422045-14	長崎県	諫早市	多良岳に雲がかかれば雨		諫早地方方言集 発行：諫早方言の会（平成12年10月1日）
422045-15	長崎県	諫早市	露（フ）の多い（ウカ）時は晴れ		諫早地方方言集 発行：諫早方言の会（平成12年10月1日）
422045-16	長崎県	諫早市	蛙（ドンク）の鳴けば雨、蟹（カネ）の上がれば大水（ウミス）		諫早地方方言集 発行：諫早方言の会（平成12年10月1日）
422045-17	長崎県	諫早市	夏の夕焼けみの笠許すな、秋の夕焼け鎌どけ鎌とげ	「みの笠許すな」とは、雨具を忘れるなの意	諫早地方方言集 発行：諫早方言の会（平成12年10月1日）
422045-18	長崎県	諫早市	冬無風（ヘタギ）で西の空の（ソラ）曇れば、突風（ホシ）の吹く		諫早地方方言集 発行：諫早方言の会（平成12年10月1日）
422045-19	長崎県	諫早市	五位鷺が鳴いたら（ワアトイナケバ）明日は北風		諫早地方方言集 発行：諫早方言の会（平成12年10月1日）
422045-2	長崎県	諫早市	朝雨と女（オメ）の腕まくり（イ）	朝降り出した雨は、心配するほどではない。	諫早地方方言集 発行：諫早方言の会（平成12年10月1日）
422045-3	長崎県	諫早市	朝の雷（トカミ）さんには（ニヤ）川渡る（ソ）な	朝からの雷鳴は、大雨の知らせという教え	諫早地方方言集 発行：諫早方言の会（平成12年10月1日）
422045-4	長崎県	諫早市	朝東風（コチ） 夕南風（ハエ） 明日は天気		諫早地方方言集 発行：諫早方言の会（平成12年10月1日）
422045-5	長崎県	諫早市	朝てらてらは雨のもと	朝焼けは天気がくずれる	諫早地方方言集 発行：諫早方言の会（平成12年10月1日）
422045-6	長崎県	諫早市	朝もやは晴れ、夕もやは雨		諫早地方方言集 発行：諫早方言の会（平成12年10月1日）
422045-7	長崎県	諫早市	雲仙 鉢巻き、多良 頂上（テッペン）	雲仙岳や多良岳の頂上が見える時は、天気がよくなる前触れの意	諫早地方方言集 発行：諫早方言の会（平成12年10月1日）
422045-8	長崎県	諫早市	柿年は大風（ウカセ）	柿が多く実る年は、台風の当り年の意	諫早地方方言集 発行：諫早方言の会（平成12年10月1日）
422045-9	長崎県	諫早市	北風 南風の（ヘソ）雲は雨のもと	地上には北風が吹き、雲は南風に流されている気象状況を言い、雨が近いことの教え	諫早地方方言集 発行：諫早方言の会（平成12年10月1日）

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
423-1	長崎県		「夕食は5時半までにはすませろ」 「メシは暗うならんうちに食え」	眉山崩壊は酉の刻（午後6時頃）におこったため夕食もとらないうちになくなった人が多かった。そのため夕食は早く取るように、と伝えられている。地変災害の記憶を留めるための言い伝えか。	渋江鉄郎：眉山ものがたり(1975) 島原市仏教会：たいへん(1992)
435015-1	熊本県	錦町	地震の時は、竹やぶに逃げろ。	竹やぶは、根が強く張っていて、地割れがないから。	言い伝え
452076-1	宮崎県	串間市	カラスが騒ぐと、地震が来る。		「言い伝え」としての口伝情報のみ
452076-2	宮崎県	串間市	ナマズが騒ぐと、地震が来る。		「言い伝え」としての口伝情報のみ
452076-3	宮崎県	串間市	蜂が地面近くに巣を作る年は、台風が来る。		「言い伝え」としての口伝情報のみ
452076-4	宮崎県	串間市	地震の時は、竹藪に逃げろ。	竹藪は、根が強く地割れがなく倒れる危険性が低い。	「言い伝え」としての口伝情報のみ
452076-5	宮崎県	串間市	地震が来たら、戸を開けろ。	家屋が倒れる前に、脱出するための入り口の確保。	「言い伝え」としての口伝情報のみ
452-1	宮崎県		雉子がしきりに鳴くと地震がする。	雉子は警戒心が強く自然の少しの動きにも敏感に反応する。	入郷地区（東臼杵郡）
452-2	宮崎県		雉子がしきりに鳴くと地震がする。	雉子は警戒心が強く自然の少しの動きにも敏感に反応する。	入郷地区（東臼杵郡）
452-2	宮崎県		ヘビは地震の前に樹に登って避難する。	同上	県下全域
452-2	宮崎県		ネズミは大地震の前になると家の中から居なくなる。	同上	同上
452-2	宮崎県		ネコは地震発生前に家から戸外に飛び出る。	同上	同上
452-2	宮崎県		地震がするときや五・七の雨に、四つ日が出る、六つ八つ時はいつも大風	五～七時にかけての雨 四時に日が差す 六～八時に大風	延岡市
452-2	宮崎県		地震があると2、3日中に雨が降る。	生活の知恵からか。	野尻町
452-2	宮崎県		テンギユウ（ゴマガラが糞）が木の上の方に卵を産むと大きな台風が来る。	高岡町では、台風に伴う洪水がしばしば起こるので虫も予知する。	高岡町
452-2	宮崎県		東南（辰巳）の雲は大時化になる。	東南からの低い黒雲が走る。	県下
452-2	宮崎県		東の空に虹が立つと台風が近い。	夏期にこの現象が見られると	延岡市
452-2	宮崎県		蟹が家に上がれば、時化が近い。	沖の海が荒れ、蟹は難を逃れて陸に上がる。	宮崎市
452-2	宮崎県		カラスや蜂の巣が高い所にかけられる年は、台風は来ない。	動物の予知	県下全域であるが、地域によって異なる。水害のある所は、このような年には洪水が起こるとする。
452-2	宮崎県		モグラが騒ぐと台風が来る。	同上	海岸地域
452-2	宮崎県		蟻が高い所に上がる年には大水が出る。	同上	県下全域
452-2	宮崎県		蜂の巣が高いと水が出る。	同上	新富町瀬口（一ツ瀬川に近い集落）

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府 県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
454257-1	宮崎県	北郷村	大雨時、通常透明である湧水に濁りが出た時は逃げる。	土砂災害への警戒を促す前兆現象を示唆	口伝情報のみ
461-1	鹿児島県		川へいがなかや梅雨やはあがらん （かわへいがなかやながしゃあがらん） ※川にはまった者がいなければ梅雨は明けない	一昔前までは梅雨時期に水の犠牲者が必ず出るものであり、犠牲者が出なければ梅雨明けは訪れない、という迷信。 水遊びの子ども達に危険を知らせ、親たちに注意を促すものである。	ことわざが語る薩摩『かごしま文庫』編集部編春苑堂出版
461-2	鹿児島県		夏の夕焼け 船繋げ （なつのゆうやけ ふなつなげ）	夏の夕焼けの後に台風を伴うことが多く、また大型の台風であることが多いことから、船をしっかりと岸壁に繋げ、というものである。	ことわざが語る薩摩『かごしま文庫』編集部編春苑堂出版
461-3	鹿児島県		東南の風は 念を入れ （たつんのかぜは ねんをいれ） ※「タツン」は「辰巳」で東南の方角	台風常襲地帯鹿児島における警句。 台風の風向きが南東に変わったときが最も風の勢いが強くなる。	ことわざが語る薩摩『かごしま文庫』編集部編春苑堂出版
461-4	鹿児島県		蜂の巣が低き時や 台風を用心 （はちのすがひきときや うかぜをゆじん）	蜂が地上から巣をかける位置が高い年は台風の襲来はないが、その位置が低かったら、その年の秋は台風の襲来に備えねばならない	ことわざが語る薩摩『かごしま文庫』編集部編春苑堂出版
461-5	鹿児島県		春の水 西 （はるのみつにし）	春に西からの風が吹きつけるときの雨は大雨になりやすい	ことわざが語る薩摩『かごしま文庫』編集部編春苑堂出版
461-6	鹿児島県		桜が咲たなら 山火事注意 （さくらがせたなら やまかじちゅうい）	「春に林野火災が多いのは、雪が消え、枯れ木や下草が乾いてくる一方、山林原野に人が多くなる上、強風やフェーン現象がよく起こるためである。」「桜前線は山火事前線でもある。」と解説されている。	ことわざが語る薩摩『かごしま文庫』編集部編春苑堂出版
463451-1	鹿児島県	川辺町	地震があつたら、竹やぶへ逃げる。	竹やぶは、竹の根が張りめぐり地割れがしない。	「川辺町の民俗」1994年
465313-1	鹿児島県	天城町	地震の時は、竹やぶに逃げろ。	竹藪は倒れるものがなく、根が強く張っているので安全	「言い伝え」としての口伝情報のみ
465313-2	鹿児島県	天城町	地震がきたら、高台に逃げろ。	津波による被害から逃れるための教訓	「言い伝え」としての口伝情報のみ
471-1	沖縄県		大地震の後、沢山の海鳥が群れて飛んできた。	津波襲来を示唆	牧野 清著 『八重山の明和大津波』
471-2	沖縄県		地震の直後、波がスーッと急速に干いて「外の瀬まで潮が干いた」	津波襲来を示唆	牧野 清著 『八重山の明和大津波』
471-3	沖縄県		明和津波の時、鶏がパタパタと木の上へ飛び上がったので、人々は何かと驚いた。	津波襲来を示唆	牧野 清著 『八重山の明和大津波』
471-4	沖縄県		津波の襲来前、風がピタリと止んでシーンと静まりかえり、何か風の前の静けさという異常な空気を感じせしめた。	津波襲来を示唆	牧野 清著 『八重山の明和大津波』
473-1	沖縄県		夏や秋に小旋風が起り、庭の木の葉をまきあげれば台風の兆し〔八重山〕	台風の予兆・前兆現象を示唆	沖縄気象台『沖縄気象台百年史 資料編』平成4年
473-2	沖縄県		夏、南より東に風の回るときは暴風の兆し〔沖縄本島〕	台風の予兆・前兆現象を示唆	沖縄気象台『沖縄気象台百年史 資料編』平成4年

防災に関わる「言い伝え」

事例No	都道府 県名	市町村名	言い伝えの内容	趣旨・ポイント	出典（添付資料）
473260-1	沖縄県	北谷町	ウスバキトンボが乱れ飛ぶと台風の兆し	台風の予兆・前兆現象を示唆	北谷町史 第三巻資料編2 民俗上
473-3	沖縄県		海のうちねりによって内波が起こり、砂浜に波状の砂型ができるのは台風の兆し〔沖縄本島〕	台風の予兆・前兆現象を示唆	沖縄気象台『沖縄気象台百年史 資料編』平成4年
473-4	沖縄県		寅方の海鳴りは台風〔宮古・八重山〕 東の海の高鳴りは暴風の兆し〔沖縄本島〕	台風の予兆・前兆現象を示唆	沖縄気象台『沖縄気象台百年史 資料編』平成4年
473-5	沖縄県		デイゴの花が例年より多く咲く時は台風が多く発生する〔沖縄本島〕	台風の予兆・前兆現象を示唆	沖縄気象台『沖縄気象台百年史 資料編』平成4年
473-6	沖縄県		ツバメが群集すれば台風の兆し〔宮古・八重山〕	台風の予兆・前兆現象を示唆	沖縄気象台『沖縄気象台百年史 資料編』平成4年